
NX7700x/A7000 シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド

(オフライン版、**Starter Pack** 利用)

GZS-002091-001-00
2025 年 6 月 第 6 版
© NEC Corporation 2023-2025

目次

目次	2
1. はじめに	4
2. 本書について	4
2.1. 本文中の記号について	4
2.2. 注意事項	4
3. 準備	6
3.1. 事前確認	6
4. 接続	9
5. 装置コンソール接続方法	10
5.1. iLO WEB インターフェース接続方法	10
5.2. リモートコンソール接続方法	13
5.3. STARTER PACK のマウント方法	15
6. ファームウェア更新手順	17
6.1. 【ケース P】追加ファームウェア更新手順	43
6.2. 【ケース Q】追加ファームウェア更新手順	54
6.3. 【ケース R】追加ファームウェア更新手順	65
7. トラブルシューティング	76
7.1. [TS-01] ファームウェア展開が失敗した	76
7.1.1. 現象	76
7.1.2. 対処	76
8. 付録	86
8.1. ファームウェアバージョン確認方法	86
8.1.1. iLO Web コンソールでの確認方法	86
8.2. リモートコンソール及び仮想メディア	88
8.2.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC) の使い方	88
8.2.1.1. コンソールの起動	88
8.2.1.2. 仮想メディアのマウント方法	88
8.2.1.3. 本体装置の電源制御方法	89
8.2.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方	91
8.2.2.1. コンソールの起動	91
8.2.2.2. 仮想メディアのマウント方法	91
8.2.2.3. 本体装置の電源制御方法	93
8.3. MCTP 設定変更方法	94

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一お気付きの点や、ご不明の点がありましたら、弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2023-2025

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。

1. はじめに

このたびは、NX7700x シリーズ製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は、下記製品向けの文書となります。

対象製品 (本体装置)	NX7700x/A7010E-2c, A7010E-2c (2nd-Gen) NX7700x/A7010E-2, A7010E-2 (2nd-Gen) NX7700x/A7012M-2, A7012M-2 (2nd-Gen)
-------------	--

2. 本書について

本書は、対象本体装置の Starter Pack を使って、対象本体装置にインストールされているファームウェアをオフラインで更新するための手引きです。

ファームウェア更新作業時間	• Starter Pack (S8.80-006.01、S8.80-006.04、S8.80-006.05) を使用される場合 大凡 4 時間 30 分 (1 本体装置あたり) • Starter Pack (S8.80-006.02、S8.80-006.03) を使用される場合 大凡 3 時間 45 分 (1 本体装置あたり) • 上記以外の Starter Pack を使用される場合 大凡 3 時間 00 分 (1 本体装置あたり)
---------------	---

2.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

 重要	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点を示します。
 チェック	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。

また、本文中に掲載している画面イメージは一例であり、対象製品、対象製品の構成及びご使用 Starter Pack に依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。

2.2. 注意事項

本書記載手順でのファームウェア更新に係る注意事項を記載します。

[注意事項 01]

本書記載手順でファームウェアを更新した場合、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))及び iLO6 の設定が変更される場合があります。
そこで、本書記載手順でファームウェアを更新する前に、これら設定をバックアップし、ファームウェアを更新した

後、これら設定をリストアすることをお勧めします。
バックアップ及びリストア方法については、下記ガイドを参照してください。

- システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))
→ 対象本体装置のメンテナンスガイド(設定編)
- iLO6 の設定
→ 対象本体装置の iLO6 ユーザーズガイド



本体装置セットアップ時におけるシステムユーティリティ設定に係る事項が、本体装置のユーザーズガイドの「3 章 (2.4 設定が必要なケース)」に記載されています。



各種ガイドの最新版を、web サイト <https://jpn.nec.com/nx7700x/support/> に掲載しています。

[注意事項 02]

本書記載手順でファームウェアを更新し、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))及び iLO6 の設定をリストアもしくは再設定した後、これら設定をバックアップしてください。



何世代も前のファームウェア環境下でバックアップしたバックアップファイルが、新しいファームウェア環境下でリストアできなくなる場合があります。

[注意事項 03]

下記条件を全て満たす場合、Starter Pack (S8.80-006.02) も必要になりますので、予め準備してください。

■条件

- Starter Pack (S8.80-006.01) を使用する。
- 下記いずれかのオプション製品を装備している。
 - [NE3390-165] Fibre Channel コントローラ(1ch)
 - [NE3390-166A] Fibre Channel コントローラ(2ch)
 - [NE3390-166L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル
 - [NE3390-174] Fibre Channel コントローラ(2ch)
 - [NE3390-174L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル

[注意事項 04]

本書記載手順でファームウェア更新した場合、ブートデバイス順序が変わる可能性があり、その結果として、OS 起動不可、または OS 起動に時間がかかるようになる場合があります。
そこで、本書記載手順でファームウェア更新した後、下記手順にて、ブートデバイス順序を確認すると共に、起動したいブートデバイスを最上位に移動させてください。

[ブートデバイス順序確認/変更方法]

01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Boot Options → UEFI Boot Settings → UEFI Boot Order}へと進みます。
03. 「UEFI Boot Order」画面において、起動したいブートデバイスが最上位に位置していることを確認します。
もし最上位に位置していないならば、最上位に移動させます。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、System Utilities トップ画面まで戻り、『Reboot the System』を選択し、対象本体装置を再起動します。

3. 準備

本作業では、対象本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 3-1 必要となる物品

物品	数量	備考
端末パソコン	1	本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め当該端末パソコンのローカルディスクに収録しておいてください。
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

 ヒント	既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記< Table 3-1 必要となる物品 > は不要です。
	- iLO Web インターフェースにアクセスする端末 - iLO Web インターフェースの User Name と Password - iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め iLO Web インターフェースへのアクセス端末のローカルディスクに収録しておいてください。

3.1. 事前確認

[事前確認 01]

本書記載ファームウェア更新手順は、**Secure** ブートに対応していません。
 よって、本体装置の **Secure** ブートが有効になっている場合には、一旦無効に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に有効に戻してください。

Secure ブートの現在の設定値は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Current Secure Boot State}で確認できます。

Secure ブートの変更は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Attempt Secure Boot}で行えます。

[事前確認 02]

IO 系デバイスにケーブル(*a)などが接続されている場合、それらケーブル(*a)接続状態を記録した上で、当該ケーブル(*a)を取り外してください。そして、ファームウェア更新作業終了後に、それらケーブル(*a)を元の接続状態に戻してください。(目的: 不測事態を防ぐため)

(*a) 本体装置内蔵 SAS/SATA ケーブルは対象外

[事前確認 03]

IO 系デバイスの PCIe Option ROM が"Disabled"に設定されている場合、IO 系デバイスのファームウェア version を確認できない場合があります ("N/A"と表示される)。
 その場合には、当該 IO 系デバイスの PCIe Option ROM 設定を一旦"Enabled"に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に"Disabled"に戻してください。

PCIe Option ROM 設定は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → PCIe Device Configuration → <PCIe デバイス (*a)>}で行えます。

(*a) PCIe Option ROM Disabled 設定時、PCIe デバイス表記は下表の通りになります。

モジュール	PCIe デバイス表記 (Option ROM Disabled 時)
RAID/SAS Controller	Storage Controller
	NVM Express Controller
NIC/LOM	Network Controller
FC Controller	PCIe Controller

[事前確認 04]

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応しておりません。
 そこで、対象本体装置に TPM が搭載されているか否かを確認してください。

[TPM 搭載有無確認方法]

01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options}へと進み、「Current TPM State」を確認。

そして、TPM が搭載されている場合、下記操作を行って、一旦、「TPM Visibility」を[Hidden]に変更します。
 また、FW 更新作業後、「TPM Visibility」と「Platform Certificate Support」を元の設定値に戻してください。

[TPM Visibility 設定変更方法]

01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Advanced Security Options}へと進み、「Platform Certificate Support」の現設定値を控えた上で、[Disabled]に変更します。
03. <Esc>キーを数回押下し、Server Security 画面まで戻り、{Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options}へと進み、「TPM Visibility」の現設定値を控えた上で、[Hidden]に変更します。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、System Utilities トップ画面まで戻り、『Reboot the System』を選択し、対象本体装置を再起動します。

[事前確認 05]

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定が「無効」になっていると、ファームウェア更新が失敗する場合があります。

そこで、ファームウェア更新を行う前に、下記<MCTP 設定に係る事前作業>を行ってください。
 そして、ファームウェア更新完了後、必要に応じて、MCTP 設定を元に戻してください。

<MCTP 設定に係る事前作業>

- 1) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける現 MCTP 設定値を控える (記録する)。
- 2) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける全てのスロットの MCTP 設定を、一旦「有効」に設定する。

MCTP 設定変更方法については、<8.3MCTP 設定変更方法>を参照してください。



MCTP 設定は、**System Utilities** 及び **iLO Web** インターフェースのどちらとも、デフォルト「有効」です。

4. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 4-1 接続図 (A7010E-2c、A7010E-2c (2nd-Gen)モデル)

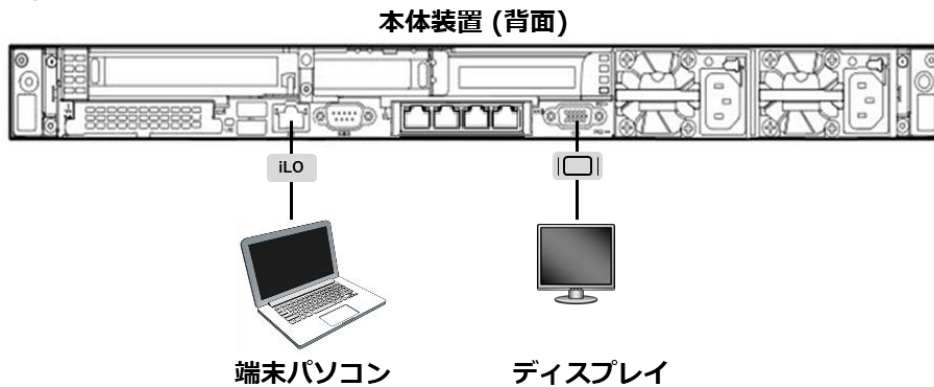
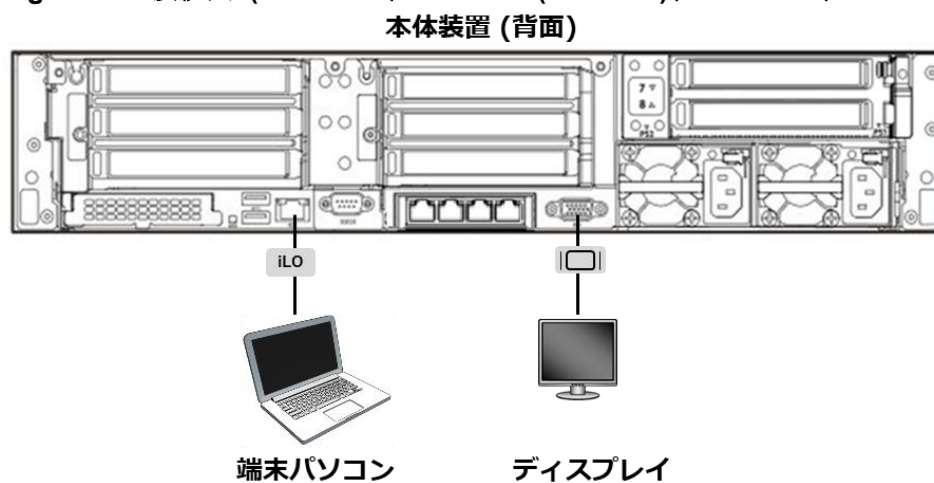


Figure 4-2 接続図 (A7010E-2、A7010E-2 (2nd-Gen)、A7012M-2、A7012M-2 (2nd-Gen)モデル)



端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。



既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

5. 装置コンソール接続方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。

また、本体装置内 iLO のリモートメディア機能を使って、**Starter Pack** を本体装置にマウントして更新作業を行います。

ここでは、iLO Web インターフェース接続方法、リモートコンソール接続方法、及び **Starter Pack** のマウント方法を記載します。

5.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。



既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。

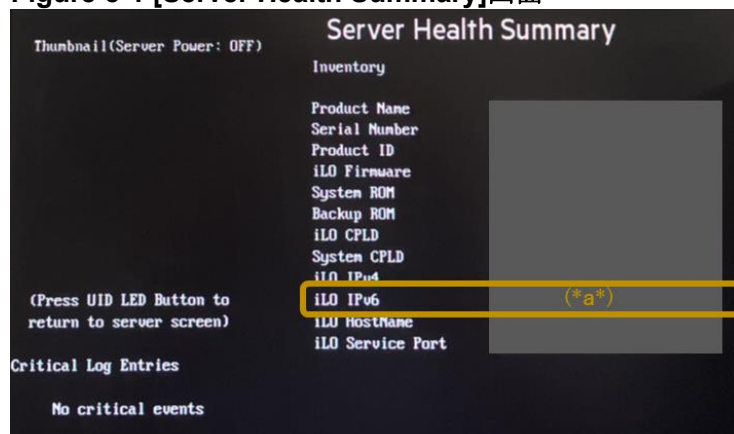


以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。

B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

- ① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。
- ② **Server Health Summary** 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、**UID** スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 5-1 [Server Health Summary]画面



 ヒント	既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。
 ヒント	IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。 そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。 (例) 表示値: fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値: fe80::9618:82ff:fe71:02b4
 ヒント	前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。 その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します (スタンバイ状態にします)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。
 ヒント	以降の作業で、この IPv6 アドレスが必要になります。

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

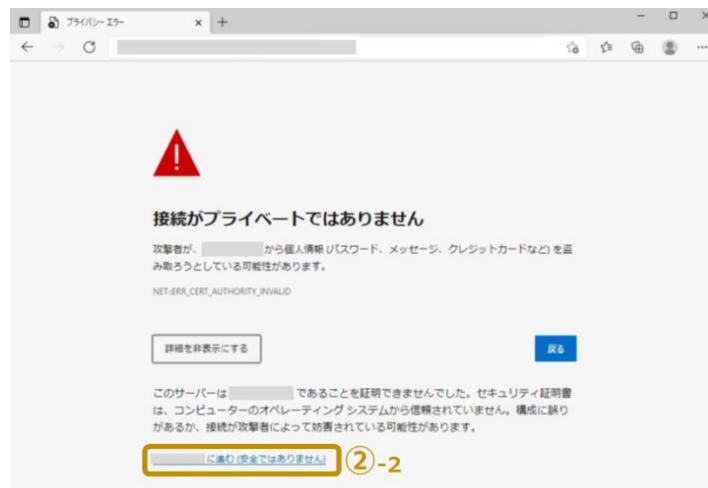
A. iLO Web インターフェースへの接続

- ① 端末パソコンにて Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー (①) に入力します。

例) [https://\[abcd::efgh:ijklmnop:qrst\]/](https://[abcd::efgh:ijklmnop:qrst]/)

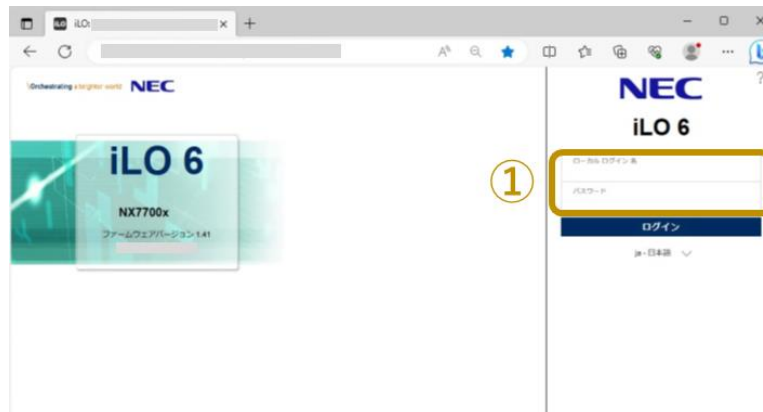


- ② セキュリティ警告が表示された場合は、上記画面の「詳細情報」(②-1)をクリックします。そうすると、下記画面表示になりますので、「xxxx に進む (安全ではありません)」(②-2)をクリックしてください。

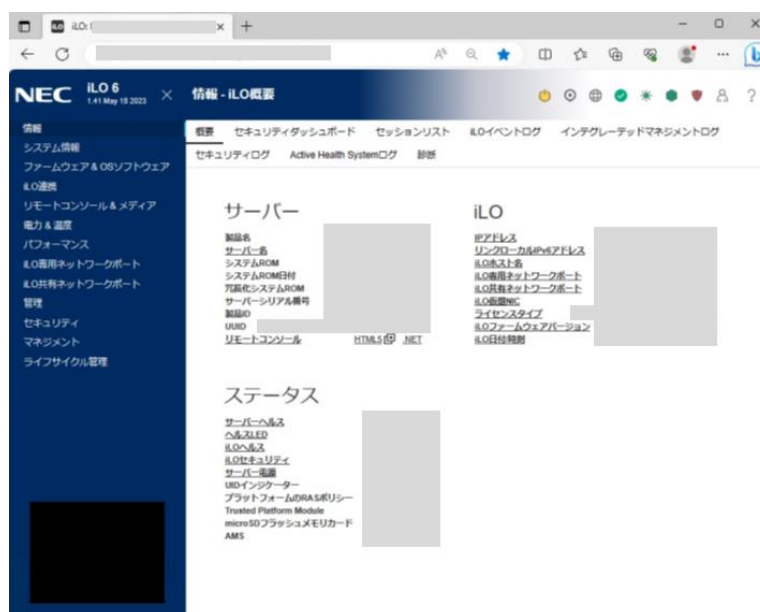


B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下記画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの **User Name** と **Password** を①箇所に入力し、「ログイン」ボタンを押します。



ログインに成功すると、下記画面に切り替わります。



5.2. リモートコンソール接続方法

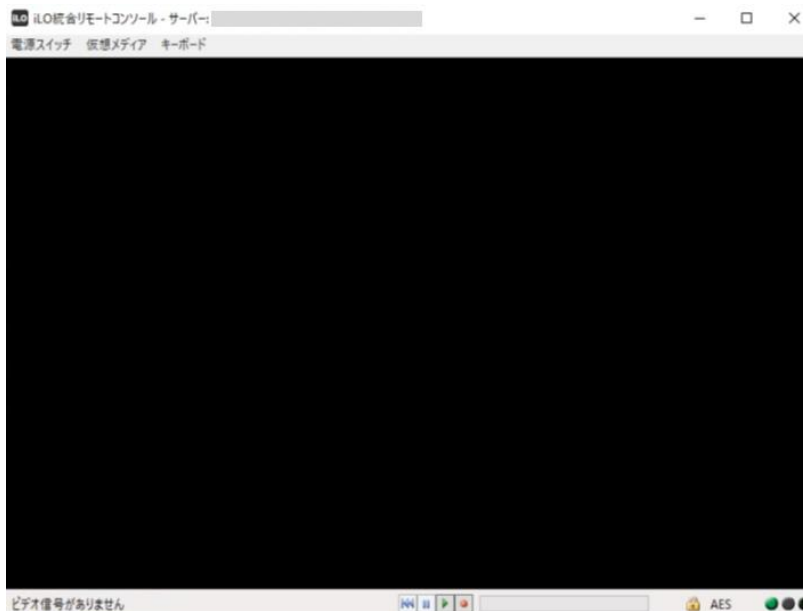
[step.b-01] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]



「.NET リモートコンソール」が起動しない場合、下記何れかの対処を行ってください。

[対処 A]

「iLO6 ユーザーズガイド」を参照して、.NET リモートコンソール(.NET IRC)に係る要件、トラブルシューティング等を確認し、端末パソコン及び端末パソコン上で起動している web ブラウザを適切に設定する。

[対処 B]

Microsoft Edge にて iLO Web インターフェースに接続している場合、Microsoft Edge を下記の通り設定し、Microsoft Edge を再起動させた後、再度 iLO Web インターフェースに接続する。

1. ブラウザで以下に移動する。
edge://settings/content/insecureContent
2. [許可]において、[追加]をクリックする。[サイトの追加]ダイアログが開きます。
3. [サイトの追加]ダイアログに、iLO Web インターフェースの IP アドレスを入力し、[追加]をクリックする。
(IPv6 アドレス入力例) [aaaa::bbbb:cccc:dddd:eeee]

[対処 C]

Microsoft Edge(IE モード)にて、iLO Web インターフェースに接続する。

[対処 D]

「HTML5 統合リモートコンソール」を起動させてください。
これらリモートコンソールの起動方法は、＜8.2 リモートコンソール及び仮想メディア＞を参照ください。

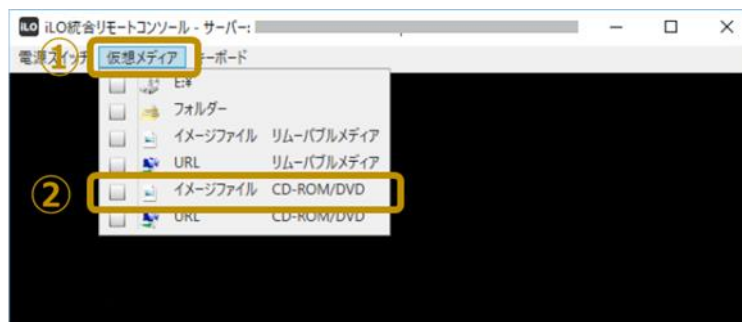
5.3. Starter Pack のマウント方法

[step.c-01] Starter Pack のマウント

本体装置から Starter Pack ファイル(iso ファイル)が見えるようにします。

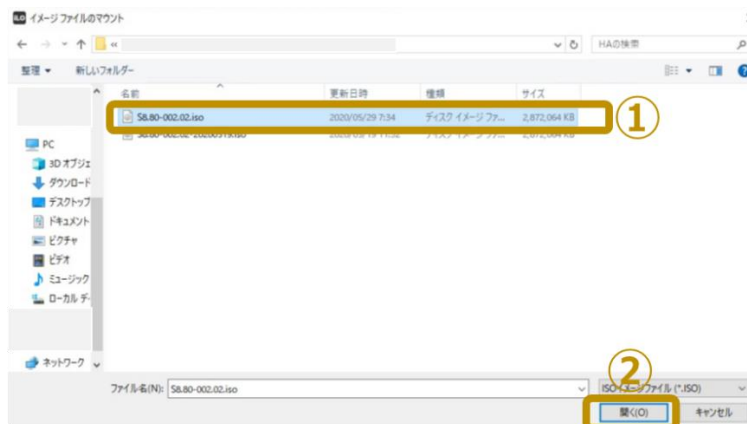
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD]を選択します。



B. Starter Pack ファイルのマウント

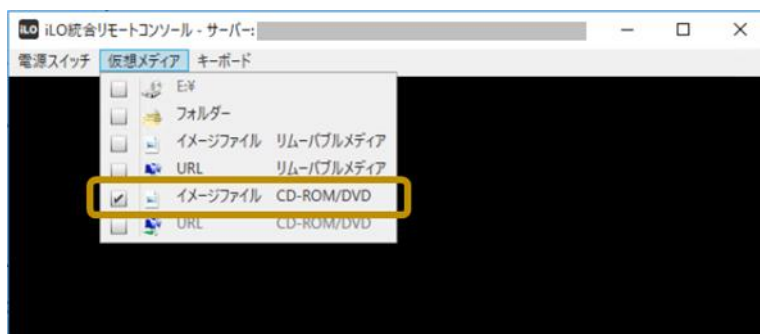
ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、予め端末パソコン内に収録しておいた Starter Pack ファイル(iso ファイル)を選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



上記「開く(O)」ボタン(②)をクリックしてからファイルマウントされるまで、約 1 分ほどかかります。

C. Starter Pack ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



6. ファームウェア更新手順

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

 重要	本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。
 重要	本ファームウェア更新手順の下記手順には、操作時間制約(10 秒以内)があります。 よって、予め、どのような操作時間制約なのかをご確認頂いた上で、ファームウェア更新を開始してください。 - [step.1-07] Starter Pack の起動 - [step.2-06] Starter Pack の起動 - [step.p-06] Starter Pack の起動 - [step.q-06] Starter Pack の起動 - [step.r-06] Starter Pack の起動 - [step.TS01-16] Starter Pack の起動
 ヒント	POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。 POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯している場合、本体装置の電源が ON されています。 POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF してください(スタンバイ状態にしてください)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。
 ヒント	本体装置の Mother Board に収録される Syetem ROM は 2 バンク構成になっています。 そのため、再起動を跨いでファームウェア更新を 2 回実施する必要があります。 { ファームウェア更新(1回目) → 再起動 → ファームウェア更新(2回目) }

[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.1-02] iLO 設定の事前確認

事前確認項目はございません。次の作業に進んでください。

[step.1-03] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.1-04] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた Starter Pack ファイル(iso ファイル)が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

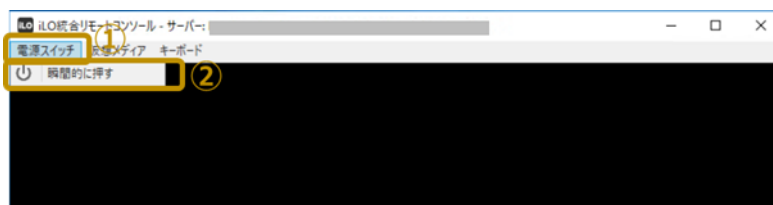
[step.1-05] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.1-06] Boot Menu の起動

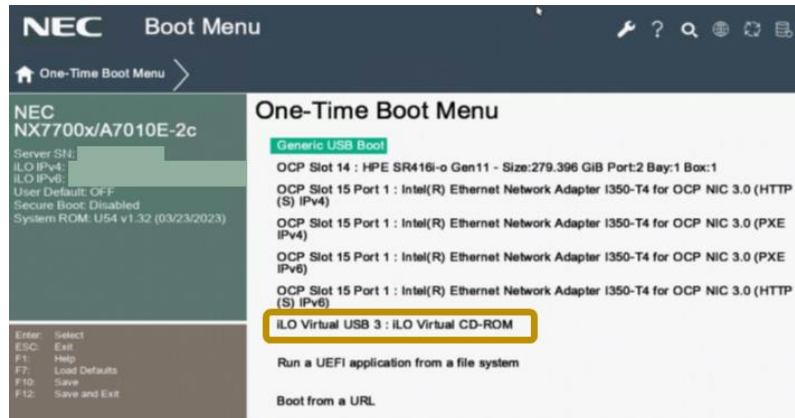
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.1-07] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter>キーを押します。



重要 10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

C. ソフトウェア使用許諾

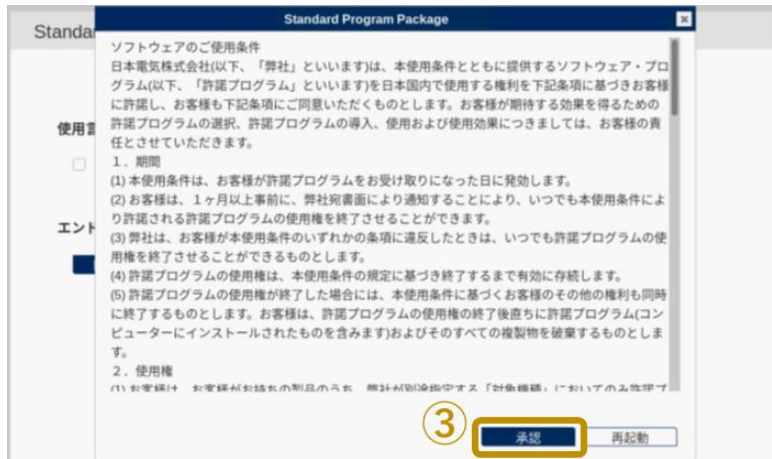
しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。





上記画面が表示されるまで、約 10 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」③をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」④をクリックします。



[step.1-08] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

リモートコンソールに下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。





重要

上記[ファームウェアの更新]を押下したら、<[step.1-09] ファームウェアインベントリの完了待ち>に記載する「手順 1 インベントリ」画面に遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、**Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし **Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 **OFF** した上で再実行願います。



ヒント

下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.1-09] ファームウェアインベントリの完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。

下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。





インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.1-10] ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアの一覧が表示されます。



A. ファームウェアの選択

リモートコンソールの「手順 2 レビュー」画面において、更新するファームウェアを選択します。



上記「手順 2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新必須なファームウェア(パッケージ)を、下記<Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ) ~1 回目~>に記載します。

Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ) ~1 回目~

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
{OEM_U54_...}	Mother Board (System ROM)	
{firmware-u54sps-...}	Mother Board (SPS)	
{firmware-ilo6-...}	Mother Board (ILO)	(*00)
{ilo6-...}		
{firmware-ilo6-lpk-...}	Mother Board (language-pack)	
(HPE_SR_Gen10_ ...)	RAID (SR, Bi-mode) [NE3303-/243/243L/245/245L] SAS [NE3303-197/197L]	(*01)
(HPE_SR416_SR932_ ...)	RAID (SR, Tri-mode) [NE3303-244/244L/246/246L]	(*01), (*04)
(HPE_NS204i_ ...)	OS ブート専用ボード [NE3303-247/247L]	(*01), (*06)
(HPE_MR408i-o_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-249/249L]	(*01)

(HPE_MR416i-o_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-250/250L]	(*01)
(HPE_MR416i-p_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-252/252L]	(*01)
(firmware-nic-is-intel- ...)	NIC (1G, T) [NE3304-206/206L/209/209L]	(*01)
(bcmpup)	NIC (10G, T) [NE3304-217/217L/219/219L]	(*01)
(HPE_E810_XXVDA2_SD_OCP_ ...)	NIC (10/25G, SFP) [NE3304-208/208L]	(*01)
(HPE_E810_XXVDA2_SD_ ...)	NIC (25G, SFP) [NE3304-212/212L]	(*01)
(B ... _header.pldm)	FC (16G) [NE3390-163/164/164L]	(*01), (*02)
(P ... _header.pldm)	FC (32G) [NE3390-175/176/176L]	(*01), (*02)
(firmware-fc-qlogic- ...)	FC (16G) [NE3390-165/166A/166L]	(*00), (*01), (*03), (*05)
(bkupd_header.pldm)	FC (32G) [NE3390-174/174L]	(*00), (*01), (*03), (*05)
(firmware-fc-qlogic- ...)	FC (32G) [NE3390-174/174L]	(*00), (*01), (*03), (*05)
(*a) 「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。 (*00) 使用する Starter Pack に依って、何れかのパッケージ名称となります。 (*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。 (*02) 必ず下記「重要 A」をお読みください。 (*03) 必ず下記「重要 B」をお読みください。 (*04) 必ず下記「重要 C」をお読みください。 (*05) 必ず下記「重要 D」をお読みください。 (*06) 必ず下記「重要 E」をお読みください。		

「手順 2 レビュー」画面において、更新必須対象ファームウェア(パッケージ)の「コンポーネントを選択」欄を確認します。



「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



重要 A	「手順 2 レビュー」画面において、パッケージ:(B ... _header.pldm) 及び (P ... _header.pldm) が表示された場合
	「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(B ... _header.pldm) 及び (P ... _header.pldm) の文字列を含む 2 つのパッケージが表示された場合、両方のパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更でき

ない場合があります。
(両方のパッケージを **選択済み** または **強制** に変更できない)

その場合には、(B … **_header.pldm**) の文字列を含むパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。

さらに、「(P … **_header.pldm**) の文字列を含むパッケージを選択できなかった」旨を控えておいてください。

以降の手順で必要になります。



Starter Pack S8.80-006.01 を使用している場合、

「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(firmware-fc-qlogic- …) の文字列を含むパッケージ(*01)に対して、「コンポーネントを選択」欄を、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



(firmware-fc-qlogic- …) の文字列を含むパッケージ(*01)については、以降の <[step.5-01] 追加ファームウェア更新作業>にてファームウェア更新します。

ここで「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」にしまうと、当該ファームウェアの更新に失敗する場合があります。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。



Starter Pack S8.80-006.02 を使用している場合、

「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(HPE_SR416_SR932_Gen10P_ …) の文字列を含むパッケージ(*01)に対して、「コンポーネントを選択」欄を、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



ここで「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」にしまうと、オペレーティングシステムインストール後に行う「Standard Program Package の適用 (インストール)」にてエラーする場合があります。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。



「手順 2 レビュー」画面において、パッケージ:(bk … **.upd_header.pldm**) 及び (mh … **.upd_header.pldm**) が表示された場合

「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(bk … **.upd_header.pldm**) 及び (mh … **.upd_header.pldm**) の文字列を含む 2 つのパッケージが表示された場合、
両方のパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更できない場合があります。

(両方のパッケージを 選択済み または 強制 に変更できない) その場合には、(mhupd_header.pldm) の文字列を含むパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。 さらに、「(bkupd_header.pldm) の文字列を含むパッケージを選択できなかった」旨を控えておいてください。 以降の手順で必要になります。



Starter Pack S8.80-006.04 を使用している場合、

「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(HPE_NS204i_ ...) の文字列を含むパッケージ(*01)に対して、「コンポーネントを選択」欄を、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。

コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	再起動が必要
強制	Firmware Package - HPE Gen11 Boot Controller NS204i-d, NS204i-d and HPE Gen10 Plus Boot Controller NS204i-p, NS204i-d, NS204i-t, NS204i-r (HPE_NS204i_Gen10P_Gen11_1.2.14.1013_A)	◇	ファームウェア	推奨	詳細の参照	1.2.14.1013	必須
(HPE_NS204i_ ...) の文字列を含んでいるパッケージのここを、 選択 または 強制 に変更する。							

ここで「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」にしてしまうと、当該ファームウェアの更新に失敗する場合があります。

(HPE_NS204i_ ...) の文字列を含むパッケージ(*01)については、別途個別にファームウェア更新します。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。



「手順 2 レビュー」画面において、★更新必須対象以外★の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄の設定を変更しないでください。



設定変更しないことに因り、更新必須対象以外のファームウェア(パッケージ)も更新される場合がありますが、これは意図した更新であり、問題ありません。

B. ファームウェアの展開要否の確認

「手順 2 レビュー」画面において、ファームウェアの展開要否を確認します。
具体的には、下記画面の「選択されたコンポーネント」項目(①)を確認します。

手順 1
アンベントリ

手順 2
レビュー

手順 3
展開

展開サマリー

▼ localhost 適用可能なコンポーネント

適用可能なコンポーネント: 9

推奨されたコンポーネント: 0

選択されたコンポーネント: 0

1

☐ すべて選択

☒ すべて選択解除

検索

コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	再起動が必要
強制	Language Pack - Japanese (firmware-406-jpk-ja-r11-1.20-1.1.x86_64)	◇	ファームウェア	オプション	1.20.05	1.20	いいえ

- 「選択されたコンポーネント:0」であるならば、ファームウェア展開は不要です。
以降の<[step.1-A1] Starter Pack の終了>に進みます。

- 「選択されたコンポーネント:0」以外であるならば、ファームウェア展開が必要です。
下記「C. ファームウェアの展開」に進みます。

C. ファームウェアの展開

「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

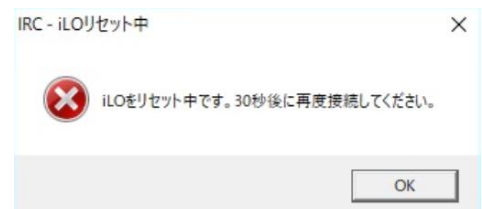
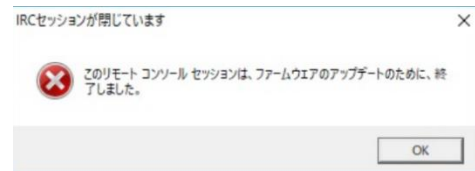
リモートコンソールが下記「手順 3 展開」画面に切り替わり、ファームウェアの展開が開始されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 70 分ほどかかります。



Mother Board(iLO)或いは Mother Board(language pack)の展開が完了すると、iLO がリセットされ、下記のようなポップアップ画面が表示され、リモートコンソール及び iLO Web インターフェースが切断されます。(最大 3 回 iLO がリセットされます)



よって、下記手順を実施し、iLO Web コンソールへの再接続・ログイン、リモートコンソールの再起動、Starter Pack の再マウントを行ってください。

1. <5.1 iLO Web インターフェース接続方法>
2. <5.2 リモートコンソール接続方法>
3. <5.3 Starter Pack のマウント方法>

また、下記ポップアップ画面が表示されましたら、端末パソコンの Web ブラウザのキャッ



B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。





ヒント

パッケージのステータスアイコンが赤色になっている場合、ファームウェア展開に失敗したことになります。



その場合は、<7.1[TS-01] ファームウェア展開が失敗した>に記載する対処を行ってください。

C. 本体装置の再起動

リモートコンソールにて、下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。

そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」(②)をクリックします。



本体装置が再起動しますので、以降の<[step.2-01] System Utilities の起動>に進みます。

[step.1-A1] Starter Pack の終了

Starter Pack を終了させて、本体装置を再起動します。

A. ファームウェア更新ソフトウェア (SUM) の終了

リモートコンソールにて、下記「手順 2 レビュー」画面の右上にある「終了」ボタンをクリックし、ファームウェア更新ソフトウェア (SUM) を終了させます。



B. Starter Pack の終了

ファームウェア更新ソフトウェア (SUM) が終了すると下記画面に切り替わりますので、画面右上のボタン(①)をクリックします。



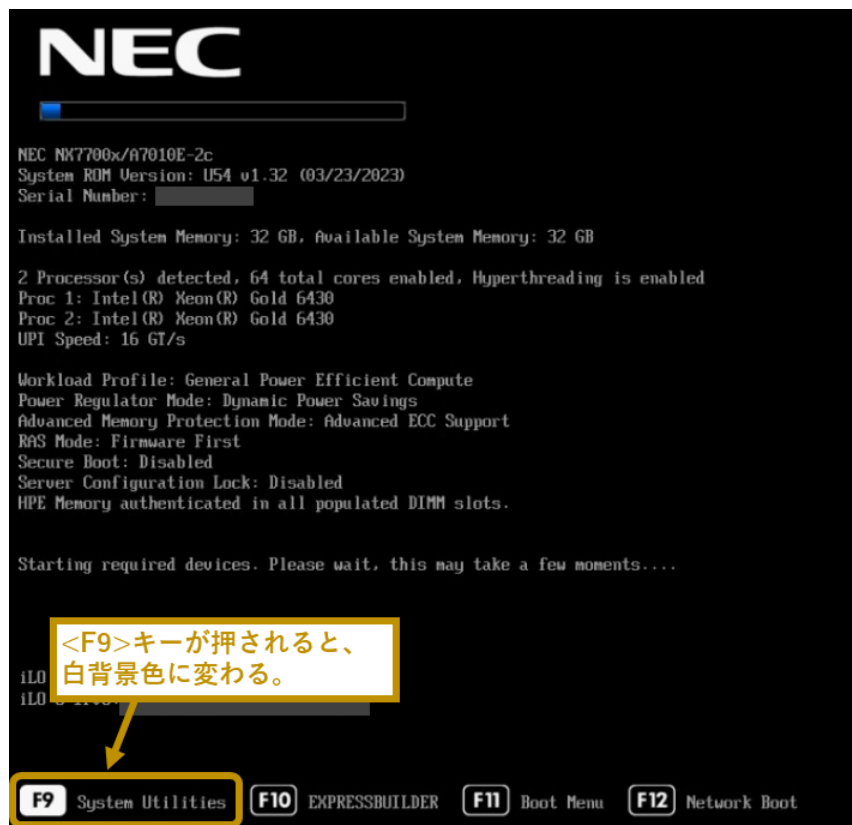
そうすると、下記画面がポップアップ表示されますので、「再起動」ボタン(②)をクリックします。



本体装置が再起動しますので、以降の<[step.2-01] System Utilities の起動>に進みます。

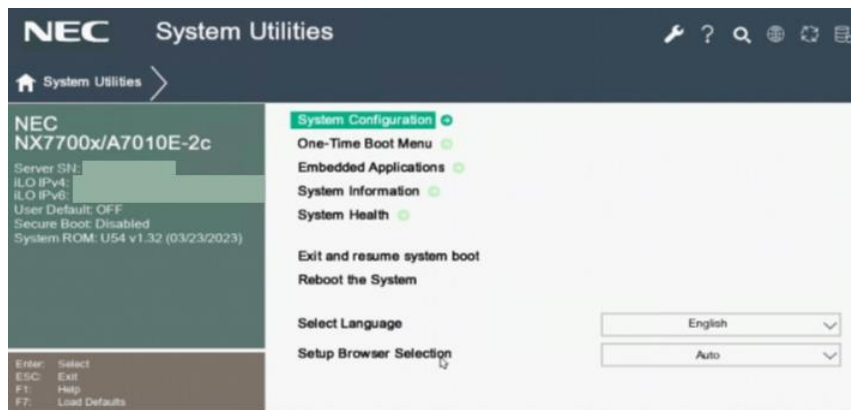
[step.2-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



上記 POST 画面表示のタイミングで、最大 2 回再起動する場合があります。
これは、展開されたファームウェアを反映させるための動作であり、この処理に最大約 30 分ほどかかります。

System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.2-02] ファームウェア更新の確認

A. ファームウェア更新完了の確認

この時点におけるファームウェア更新が全て完了しているか否かを確認します。

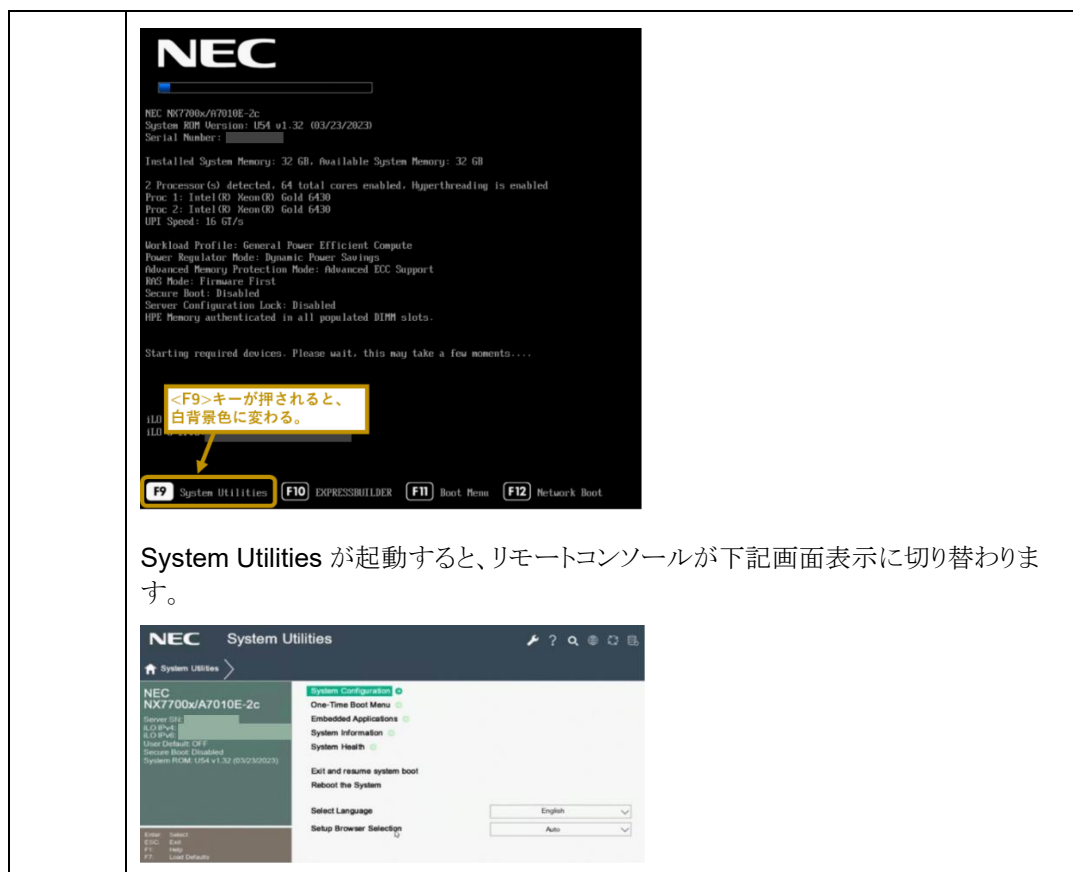
具体的には、iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「インストールキュー」タブ(②)をクリックします。そして、表示されているタスク一覧(③)内の「状態」列(④)を確認します。



- 「状態」が「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在する場合、全てのタスクが「完了」するまで、待ち合わせます。



待ち合わせしている際、本体装置が数回再起動する場合があります。再起動すると、リモートコンソールが下記 POST 画面表示になりますので、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動してください。



そして、『全てのタスクが「完了」し、且つ System Utilities が起動している』ならば、次の<[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認>に進みます。

- 「状態」が「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在しない、あるいはタスク自体が存在しない場合は、次の<[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認>に進みます。



ヒント

ファームウェア更新は、基本、<[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認>の「A. ファームウェア展開の完了待ち」のタイミングで行われます。

しかし、ファームウェアによっては、上記タイミングにて、ファームウェア更新パッケージを iLO のインストールキューに登録し、その後の本体装置再起動後にファームウェア更新する場合もあります。

本作業は、この「本体装置再起動後にファームウェア更新する」場合に適応させるものです。

[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認



ヒント

本体装置の Mother Board に収録される Syetem ROM は 2 バンク構成になっています。そこで、このタイミングで、Redundant バンク側の System ROM ファームウェアの更新要否を判断します。

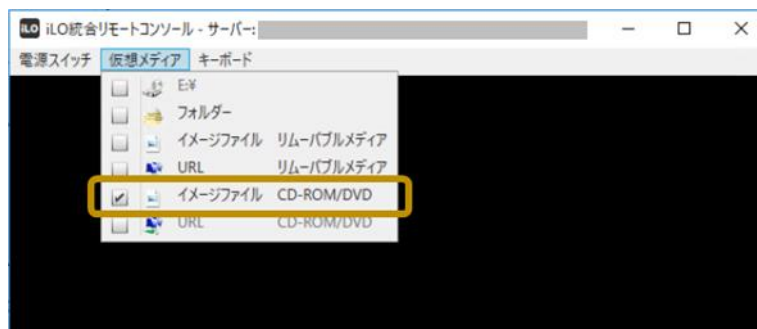
<8.1.iLO Web コンソールでの確認方法>を参照して、下記ファームウェア名のバージョンを確認します。

ファームウェア名	ファームウェアバージョン	参考情報 (対応デバイス)
System ROM		Mother Board (System ROM)
Redundant System ROM		

- "Redundant System ROM" バージョンが "System ROM" バージョン★未満★であるならば、Redundant バンク側の System ROM ファームウェア更新が必要です。
次の<[step.2-04] Starter Pack ファイルのマウント状態の確認>に進みます。
- "Redundant System ROM" バージョンが "System ROM" バージョン★以上★であるならば、Redundant バンク側の System ROM ファームウェア更新は不要です。
以降の<[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除>に進みます。

[step.2-04] Starter Pack ファイルのマウント状態の確認

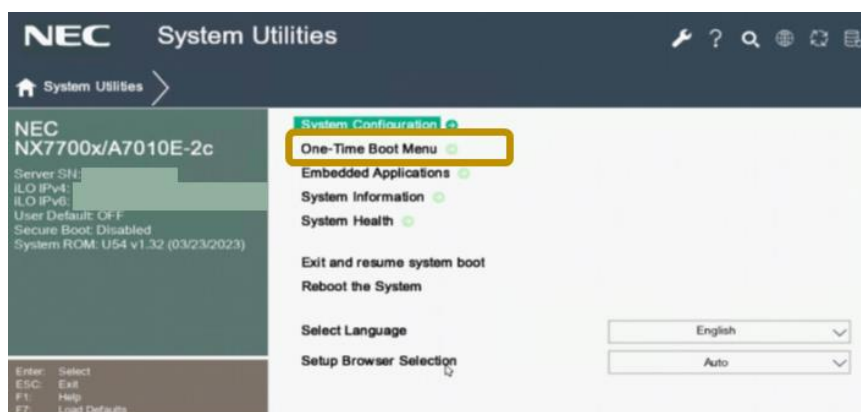
リモートコンソールにおいて、Starter Pack のマウント状態を確認します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



もしチェック(レ点)が付いていなければ、前記<5.3 Starter Pack のマウント方法>を参照して、再度 Starter Pack をマウントします。

[step.2-05] Boot Menu の起動

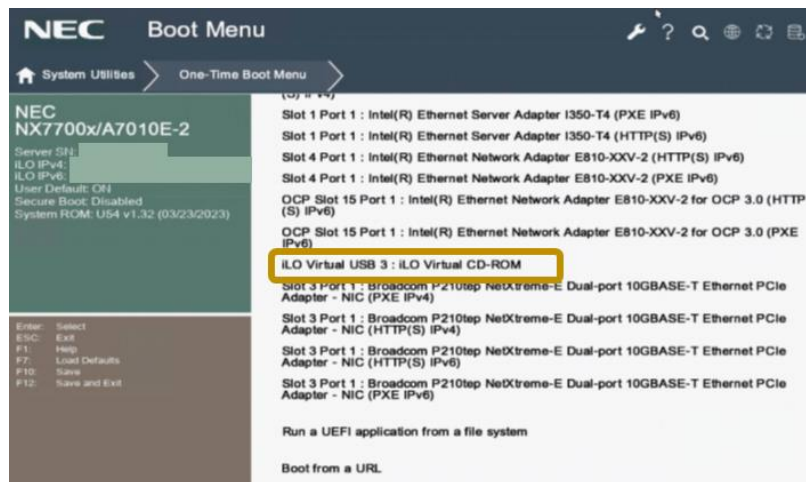
リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「One-Time Boot Menu」を選択します。



[step.2-06] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3: iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter キー>を押します。



 重要	10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。
--	---

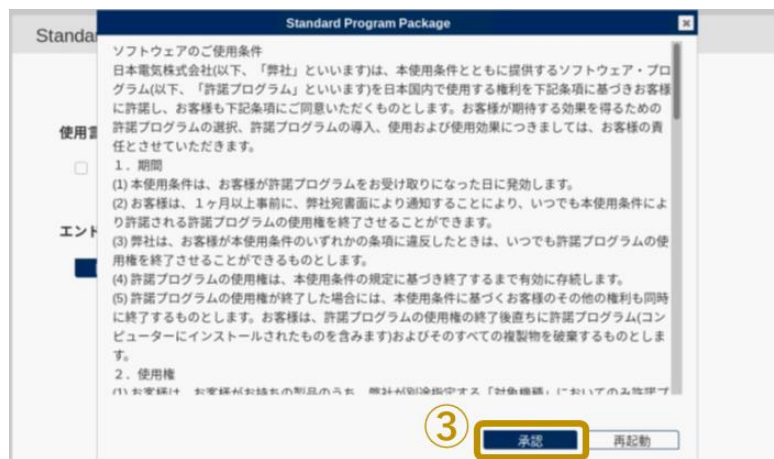
C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



 ヒント	上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。
---	----------------------------

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.2-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

リモートコンソールに下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



重要

上記[ファームウェアの更新]を押下したら、<[step.2-08] ファームウェアインベントリの完了待ち>に記載する「手順 1 インベントリ」画面に遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動

です。

もし **Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 **OFF** した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.2-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。

下記①箇所に「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.2-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアが一覧表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



上記「手順 2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新するファームウェア(パッケージ)を、下記<Table 6-2 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~2 回目~>に記載します。

Table 6-2 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~2 回目~

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
(OEM.U54_...)	Mother Board (System ROM)	
(*a) 「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。		

「手順 2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- 更新対象ファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、

「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.2-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 3 展開」画面に切り替わり、ファームウェアの展開が開始されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 5 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



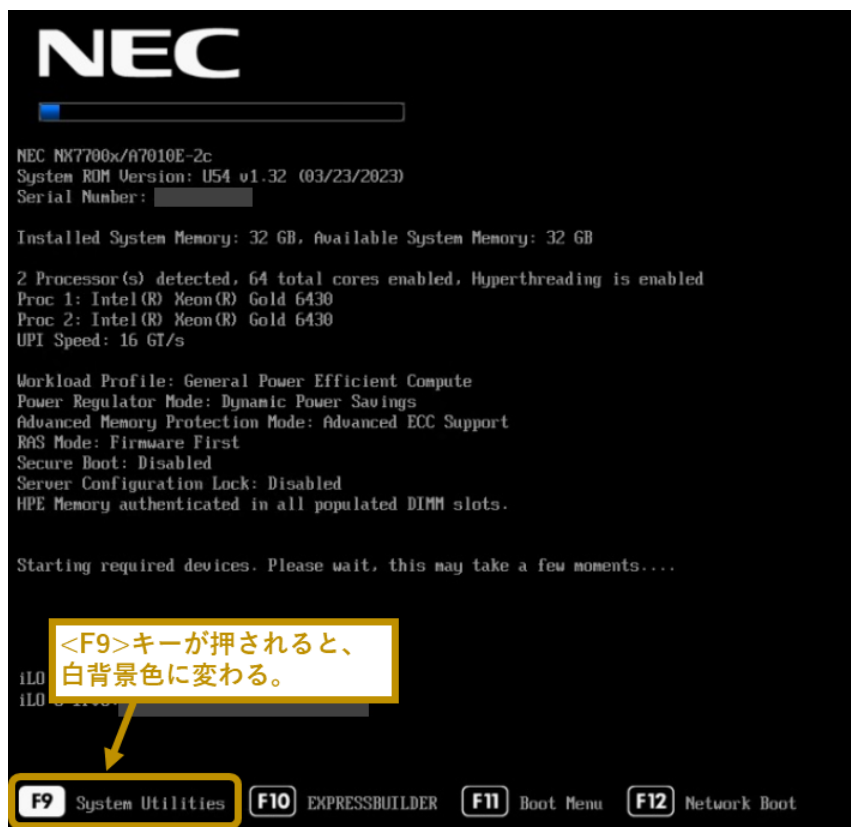
C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。
そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。

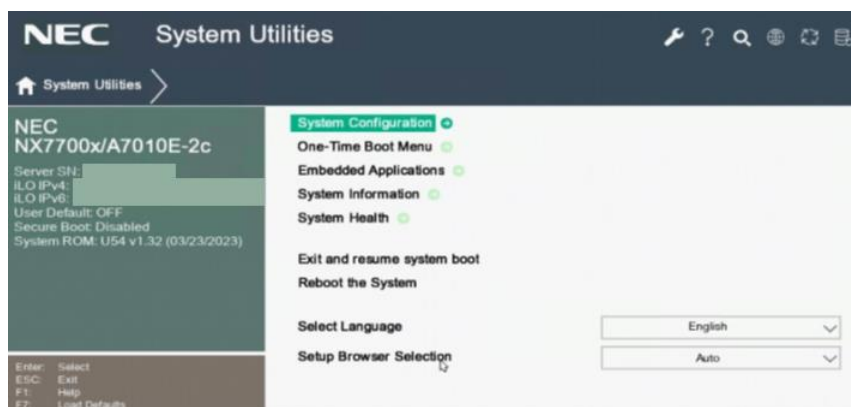


[step.3-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



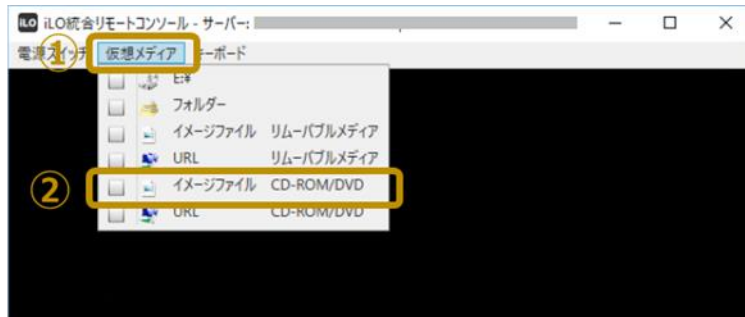
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



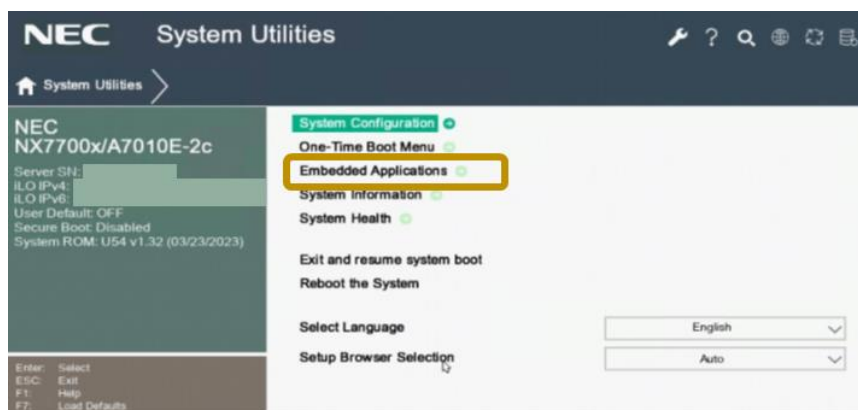
[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除

リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
 具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。

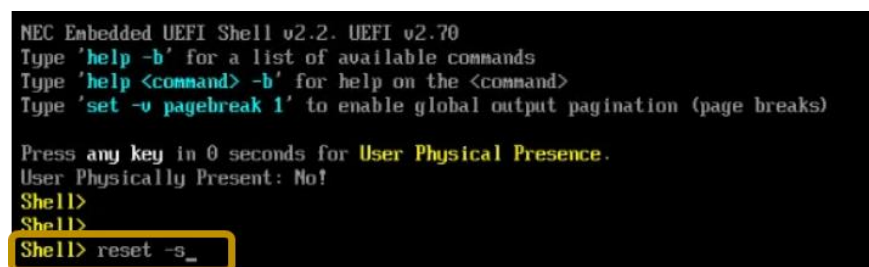
**[step.3-03] UEFI Shell の起動**

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。

**[step.3-04] 本体装置の電源 OFF**

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```

**[step.3-05] 本体装置の AC OFF → ON**

FW 更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き **AC OFF** してください。

	本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON だと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。
---	---

B. 本体装置の AC ON

本体装置を **AC OFF** した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み **AC ON** させてください。

そして、本体装置が **AC ON** 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。

	本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。 電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。 電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。
---	--

[step.4-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記＜5.1iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

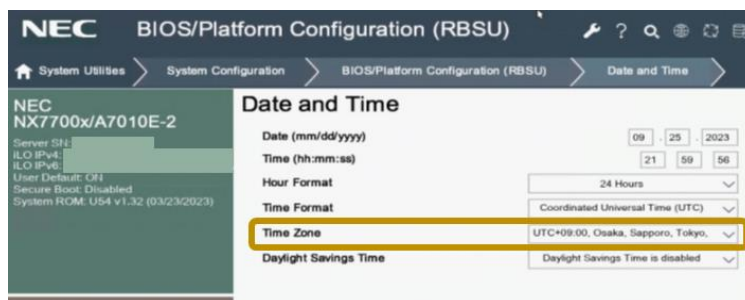
[step.4-02] iLO の設定

A. タイムゾーンの設定

- ① iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「iLO 専用ネットワークポート」(①)をクリックし、「SNTP」タブ(②)をクリックします。
- そして、「タイムゾーン」項目(③)にてタイムゾーンを選択したのち、「適用」ボタン(④)をクリックします。



選択するタイムゾーンは、{System Utilities: [System Configuration] → [BIOS/Platform Configuration (RBSU)] → [Date and Time]}の「Time Zone」と同じタイムゾーンです。



”GMT”は”UTC”に読み替えてください。

- ⑤ 「適用」ボタンをクリックすると、iLO Web インターフェースの画面上部に、「Reset iLO」ボタン (⑤) が表示されますので、当該ボタンをクリックします。
すると、画面右側に「iLO をリセット」フレームが表示されますので、「はい、リセットします」ボタン (⑥) をクリックします。



「はい、リセットします」ボタン(⑥)をクリックすると、iLO がリセットされ、iLO Web インターフェースがログイン画面になります。

[step.5-01] 追加ファームウェア更新作業

下表<Table 6-3 追加ファームウェア更新作業条件及び次手順>の「条件及び次手順」欄に記載する条件を満たす場合は、「条件及び次手順」欄に記載する次手順を実施します。

Table 6-3 追加ファームウェア更新作業条件及び次手順

ケース	条件及び次手順
P	【条件】 前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(P … _header.pldm) の文字列を含むパッケージを選択できなかった。 【次手順】 <6.1【ケース P】追加ファームウェア更新手順>
Q	【条件】 下記全てを満たす。 - Starter Pack (S8.80-006.01) を使って、ファームウェア更新を行った。 - 下記いずれかのオプション製品を装備している。 ・ [NE3390-165] Fibre Channel コントローラ(1ch) ・ [NE3390-166A] Fibre Channel コントローラ(2ch) ・ [NE3390-166L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル ・ [NE3390-174] Fibre Channel コントローラ(2ch) ・ [NE3390-174L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル

	【次手順】 <6.2【ケース Q】追加ファームウェア更新手順>
R	【条件】 前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(bk … .upd_header.pldm) の文字列を含むパッケージを選択できなかった。
	【次手順】 <6.3【ケース R】追加ファームウェア更新手順>

以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

6.1. 【ケース P】追加ファームウェア更新手順

 重要	本作業は、下記条件を全て満たす場合のみ実施します。 - 前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(P … <code>_header.pldm</code>) の文字列を含むパッケージを選択できなかった。
 ヒント	前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(B … <code>_header.pldm</code>) 及び (P … <code>_header.pldm</code>) の文字列を含む両方のパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更できない場合があります。 本更新手順は、当該事象に対処するものです。
 重要	本【ケース P】追加ファームウェア更新手順にて使用する Starter Pack は、前記 <「[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン」～「[step.4-02] iLO の設定」>にて使用した Starter Pack になります。

[step.p-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.p-02] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.p-03] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた Starter Pack ファイル (iso ファイル) が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

[step.p-04] 本体装置 電源 ON

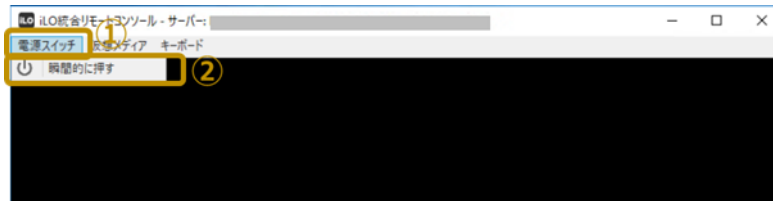
本体装置の電源を ON します。

具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.p-05] Boot Menu の起動

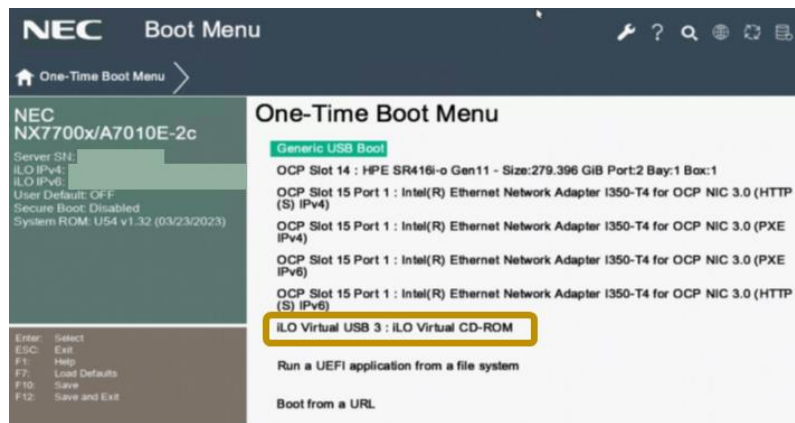
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.p-06] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter>キーを押します。



10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

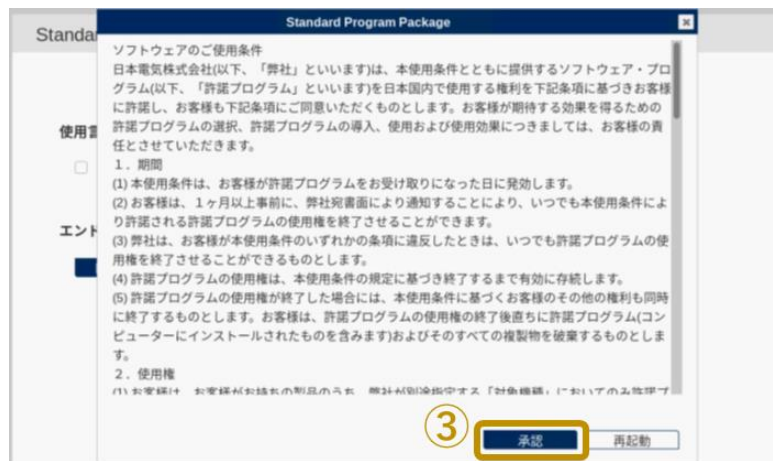
C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.p-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

リモートコンソールに下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



上記「ファームウェアの更新」を押下したら、<[step.p-08] ファームウェアインベントリの完了待ち>に記載する「手順 1 インベントリ」画面に遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記「ファームウェアの更新」を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.p-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。

下記①箇所に「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.p-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアの一

一覧が表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



 **ヒント** 上記「手順2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新するファームウェア(パッケージ)を、下記<Table 6-4 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~追加(P)~>に記載します。

Table 6-4 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~追加(P)~

パッケージ (*a)	対応デバイス	備考
(P … _header.pldm)	FC (32G) [NE3390-175/176/176L]	
(*a) 「手順2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。		

「手順2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- 更新対象ファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。

選択済み または 強制 → 選択 または 強制

コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	再起動が必要
選択済み	Firmware Package - HPE Gen11 Boot Controller NS204i-u, NS204i-d and HPE Gen10 Plus Boot Controller (HPE_NS204i_Gen10P_BootCtrl_1.2.14.1009.pup)	■	ファームウェア	推奨	詳細の参照	1.2.14.1009	必須
選択済み	Broadcom Firmware Package for BCM5741x adapters (bcm224.1.102.0.pup)	■	ファームウェア	推奨	詳細の参照	224.1.102.0	必須
選択済み	Intel Firmware Package For E810-XXVDA2 SD Adapter (HPE_E810_XXVDA2_SD_Adapter_14.0.499.29_header.pldm)	■	ファームウェア	推奨	詳細の参照	14.0.499.29	必須
選択	P14.0.499.29_header.pldm	◇	ファームウェア	推奨	詳細の参照	14.0.499.29	必須
強制	B14.0.499.29_header.pldm	◇	ファームウェア	推奨	詳細の参照	14.0.499.29	必須

それ以外のパッケージのここを、選択 または 強制 に変更する。

(P ... _header.pldm) の文字列を含んでいるパッケージのここを、選択 または 強制 に変更する。

B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.p-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 3 展開」画面に切り替わり、ファームウェアの展開が開始されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 10 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



C. 本体装置の再起動

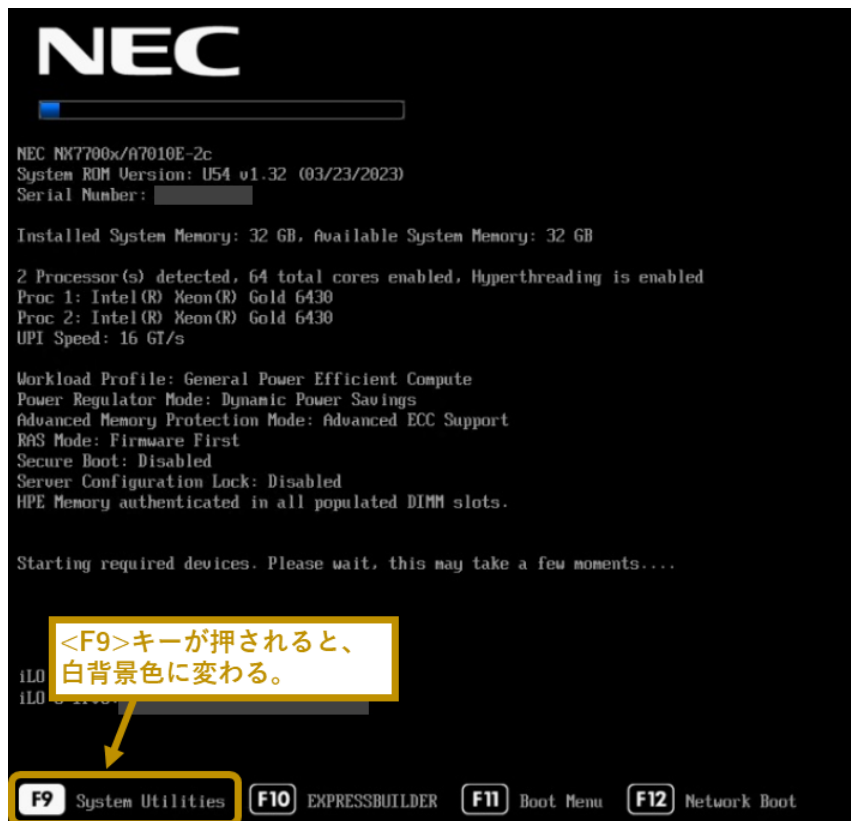
リモートコンソールにて、下記「手順3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」(②)をクリックします。



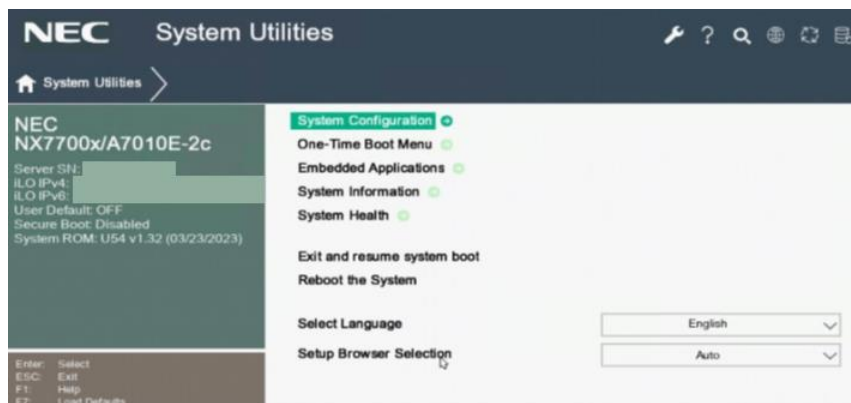
本体装置が再起動します。

[step.p-11] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。



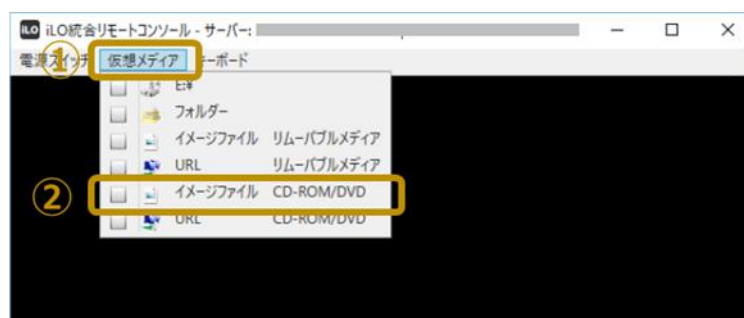
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.p-12] Starter Pack ファイルのマウント解除

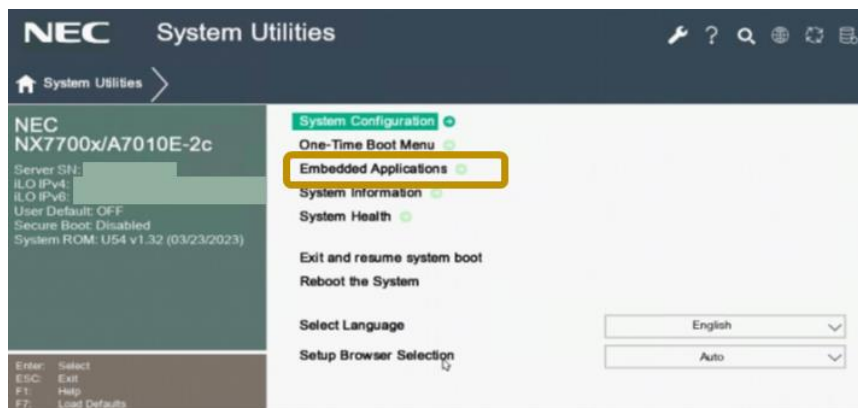
リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



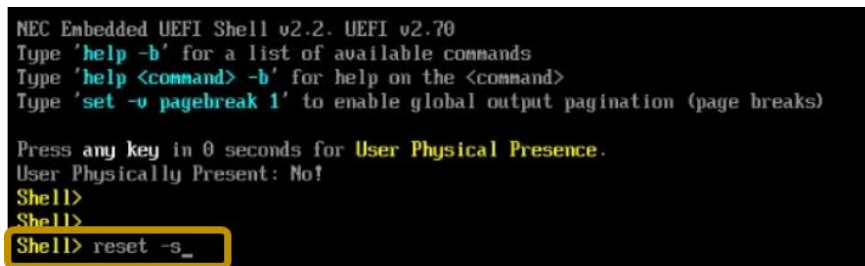
[step.p-13] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている **System Utilities** 画面において、「**Embedded Applications**」→「**Embedded UEFI Shell**」を選択します。

**[step.p-14] 本体装置の電源 OFF**

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```

**[step.p-15] 本体装置の AC OFF → ON**

FW 更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き **AC OFF** してください。



本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯します。
電源 ON だと、**POWER** ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

B. 本体装置の AC ON

本体装置を **AC OFF** した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み **AC ON** させてください。

そして、本体装置が **AC ON** 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。

	本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。 電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。 電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。
---	--

以上で、【ケース P】追加ファームウェア更新作業は終了です。

6.2. 【ケース Q】追加ファームウェア更新手順

 重要	本作業は、下記条件を全て満たす場合のみ実施します。
	- Starter Pack (S8.80-006.01) を使って、ファームウェア更新を行った。 - 下記いずれかのオプション製品を装備している。 • [NE3390-165] Fibre Channel コントローラ(1ch) • [NE3390-166A] Fibre Channel コントローラ(2ch) • [NE3390-166L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル • [NE3390-174] Fibre Channel コントローラ(2ch) • [NE3390-174L] Fibre Channel コントローラ(2ch) 長期保守対応モデル

 重要	本【ケース Q】追加ファームウェア更新手順にて使用する Starter Pack は、S8.80-006.02 になります。
---	--

[step.q-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。
具体的な手順は、前記＜5.1 iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.q-02] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。
具体的な手順は、前記＜5.2 リモートコンソール接続方法＞を参照してください。

[step.q-03] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた Starter Pack (S8.80-006.02) ファイル (iso ファイル) が本体装置から見えるようにします。
具体的な手順は、前記＜5.3 Starter Pack のマウント方法＞を参照してください。

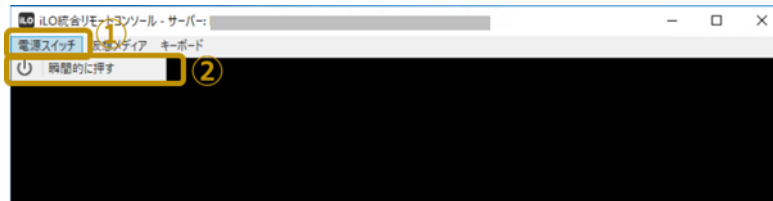
[step.q-04] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.q-05] Boot Menu の起動

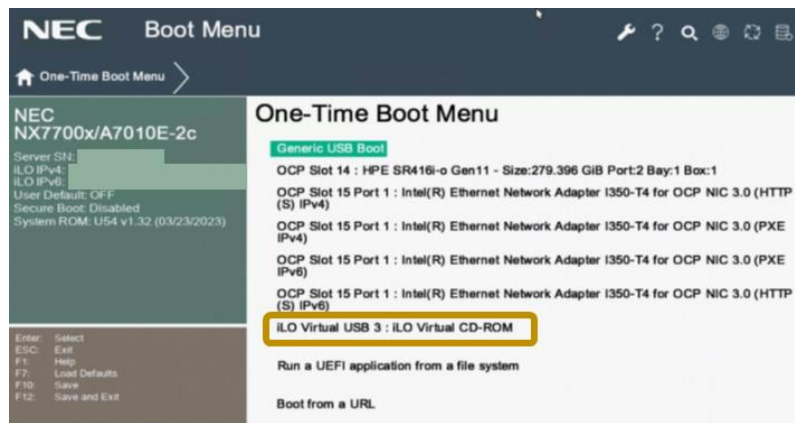
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.q-06] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3: iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter>キーを押します。



10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

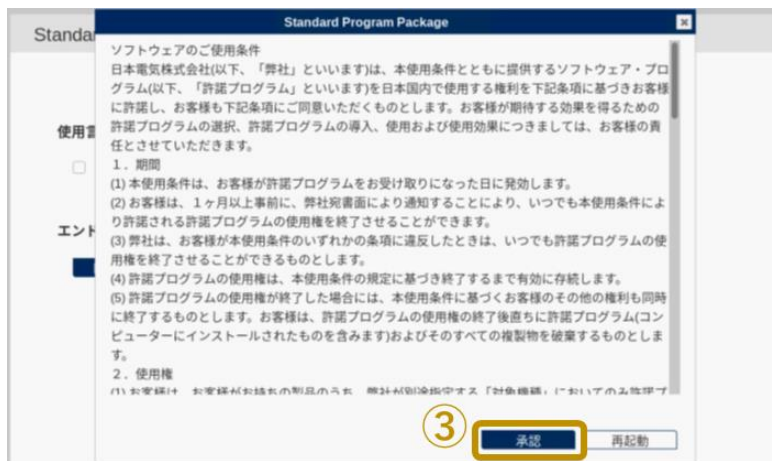
C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.q-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

リモートコンソールに下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



上記「ファームウェアの更新」を押下したら、<[step.q-08] ファームウェアインベントリの完了待ち>に記載する「手順 1 インベントリ」画面に遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記「ファームウェアの更新」を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.q-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。

下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.q-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアの一

覧が表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



上記「手順2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新するファームウェア(パッケージ)を、下記<Table 6-5 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~追加(Q)~>に記載します。

Table 6-5 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~追加(Q)~

パッケージ (*a)	対応デバイス	備考
(firmware-fc-qlogic- ...)	FC (16G) [NE3390-165/166A/166L] FC (32G) [NE3390-174/174L]	
(*a) 「手順2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。		

「手順2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。

- 更新対象ファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み

(青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



コンポーネントを選択 パッケージ

準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	再起動が必要
強制	ファームウェア	推奨	1.2.14.1012	必須	必須
強制	ファームウェア	推奨	1.2.14.1012	必須	必須
強制	ファームウェア	推奨	2023.10.01	必須	必須

それ以外のパッケージのここを、**選択** または **強制** に変更する。

(firmware-fc-qlogic- ...) の文字列を含んでいるパッケージのここを、**選択済み** または **強制** に変更する。

B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。

強制 Intel Online Firmware Upgrade Utility for Linux x86_64 (firmware-isc-is-intel-1.27.0-1.1.x86_64) ファームウェア 推奨 詳細の参照 1.27.0 必須

HPE Firmware Flash for Emulex 32Gb and 64Gb Fibre Channel Host Bus Adapters

選択済み P14.0.499.29_header.pldm ファームウェア 推奨 詳細の参照 14.0.499.29 必須

強制 B14.0.499.29_header.pldm ファームウェア 推奨 詳細の参照 14.0.499.29 必須

警告/アラート

戻る 展開 最初からやり直す

[step.q-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 3 展開」画面に切り替わり、ファームウェアの展開が開始されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。

手順 1 インストール 手順 2 レビュー 手順 3 展開

展開

localhost 展開が進行中 展開が開始されました。

最初からやり直す 中止 再起動



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 10 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



C. 本体装置の再起動

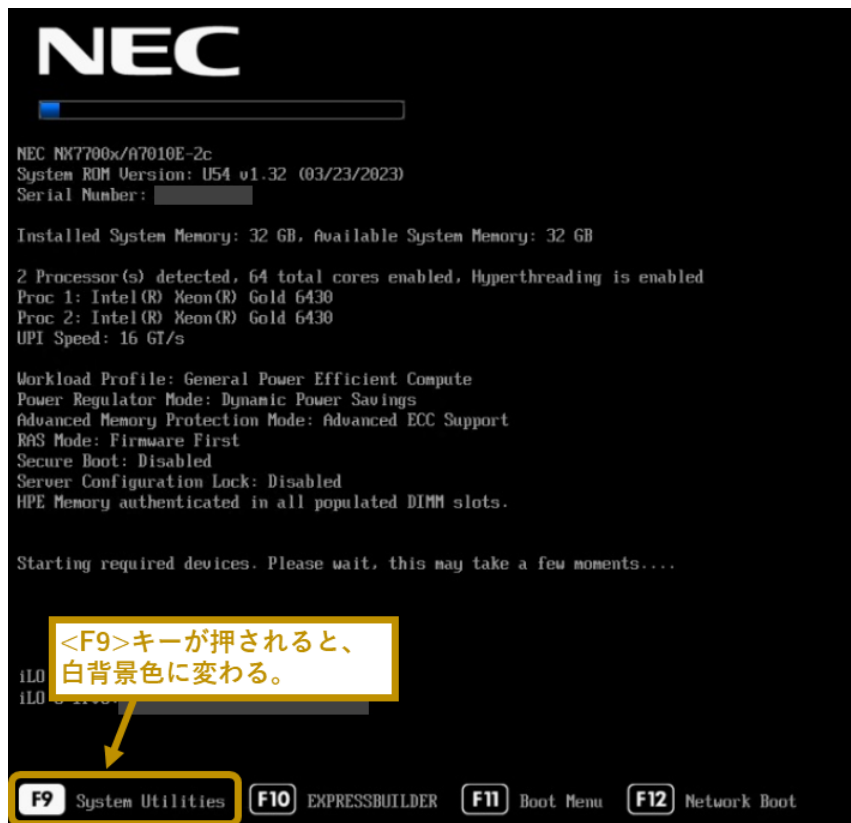
リモートコンソールにて、下記「手順3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」(②)をクリックします。



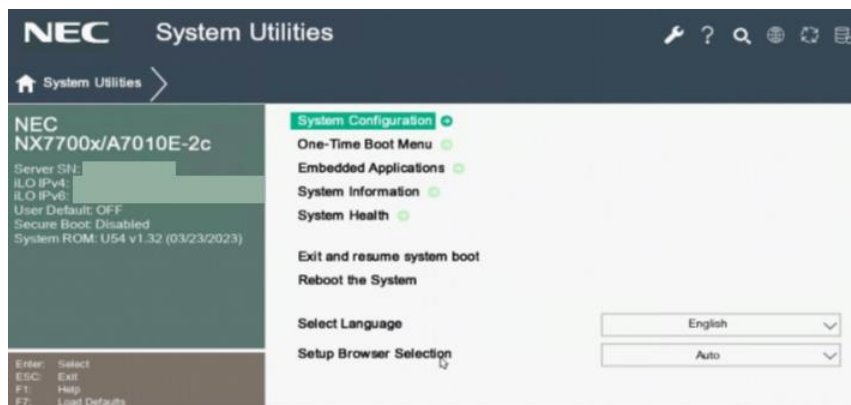
本体装置が再起動します。

[step.q-11] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。



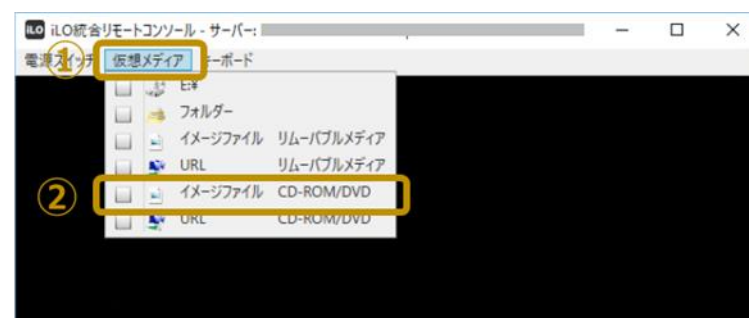
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.q-12] Starter Pack ファイルのマウント解除

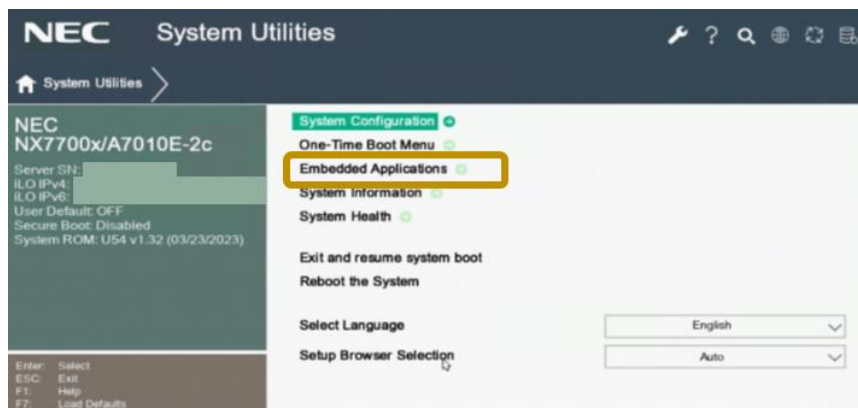
リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



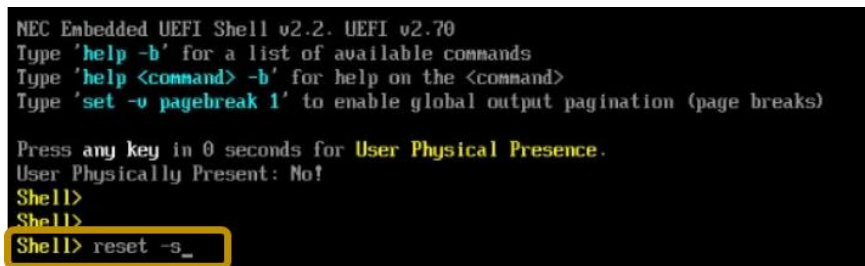
[step.q-13] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。

**[step.q-14] 本体装置の電源 OFF**

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```

**[step.q-15] 本体装置の AC OFF → ON**

FW 更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き AC OFF してください。



本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯します。
電源 ON だと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

B. 本体装置の AC ON

本体装置を AC OFF した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み AC ON させてください。

そして、本体装置が AC ON 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。



本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。

電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。

以上で、【ケース Q】追加ファームウェア更新作業は終了です。

6.3. 【ケース R】追加ファームウェア更新手順

 重要	本作業は、下記条件を全て満たす場合のみ実施します。 - 前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(bk … .upd_header.pldm) の文字列を含むパッケージを選択できなかった。
 ヒント	前記「[step.1-10] ファームウェアの選択 (A. ファームウェアの選択)」において、(bk … .upd_header.pldm) 及び (mh … .upd_header.pldm) の文字列を含む両方のパッケージを「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更できない場合があります。 本更新手順は、当該事象に対処するものです。
 重要	本【ケース R】追加ファームウェア更新手順にて使用する Starter Pack は、前記 <「[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン」～「[step.4-02] iLO の設定」>にて使用した Starter Pack になります。

[step.r-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.r-02] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.r-03] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた Starter Pack ファイル (iso ファイル) が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

[step.r-04] 本体装置 電源 ON

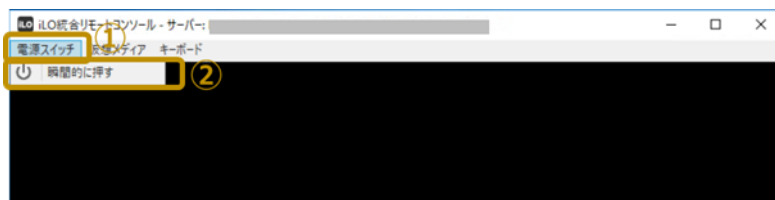
本体装置の電源を ON します。

具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.r-05] Boot Menu の起動

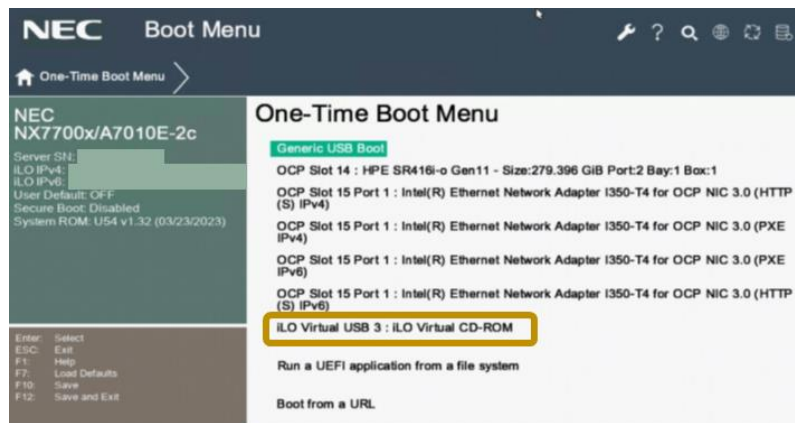
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.r-06] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter>キーを押します。



10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

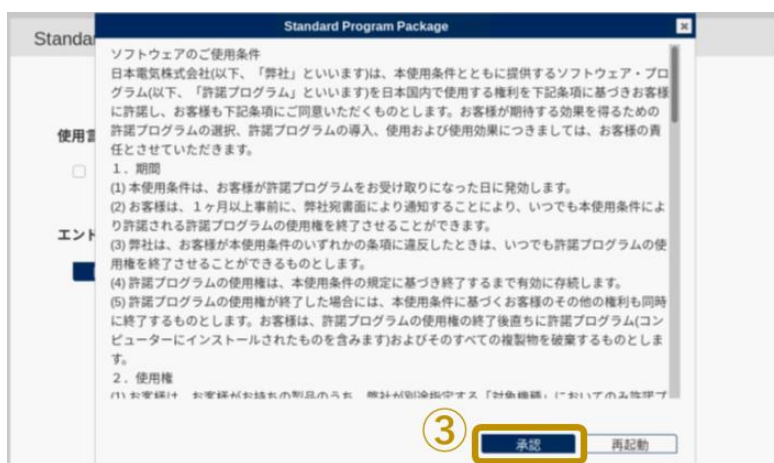
C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.r-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

リモートコンソールに下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



上記[ファームウェアの更新]を押下したら、<[step.r-08] ファームウェアインベントリの完了待ち>に記載する「手順 1 インベントリ」画面に遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.r-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。

下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.r-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアの一

一覧が表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



 **ヒント** 上記「手順2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新するファームウェア(パッケージ)を、下記＜Table 6-6 更新対象ファームウェア(パッケージ) ～追加(R)～＞に記載します。

Table 6-6 更新対象ファームウェア(パッケージ) ～追加(R)～

パッケージ (*a)	対応デバイス	備考
(bk … .upd_header.pldm)	FC (16G) [NE3390-165/166A/166L]	
(*a) 「手順2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。		

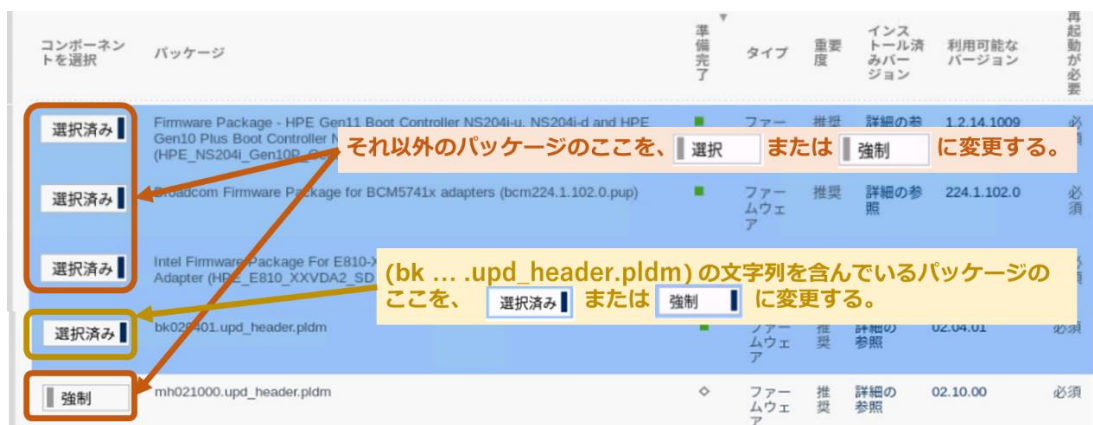
「手順2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- 更新対象ファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.r-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

リモートコンソールが下記「手順 3 展開」画面に切り替わり、ファームウェアの展開が開始されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 10 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



C. 本体装置の再起動

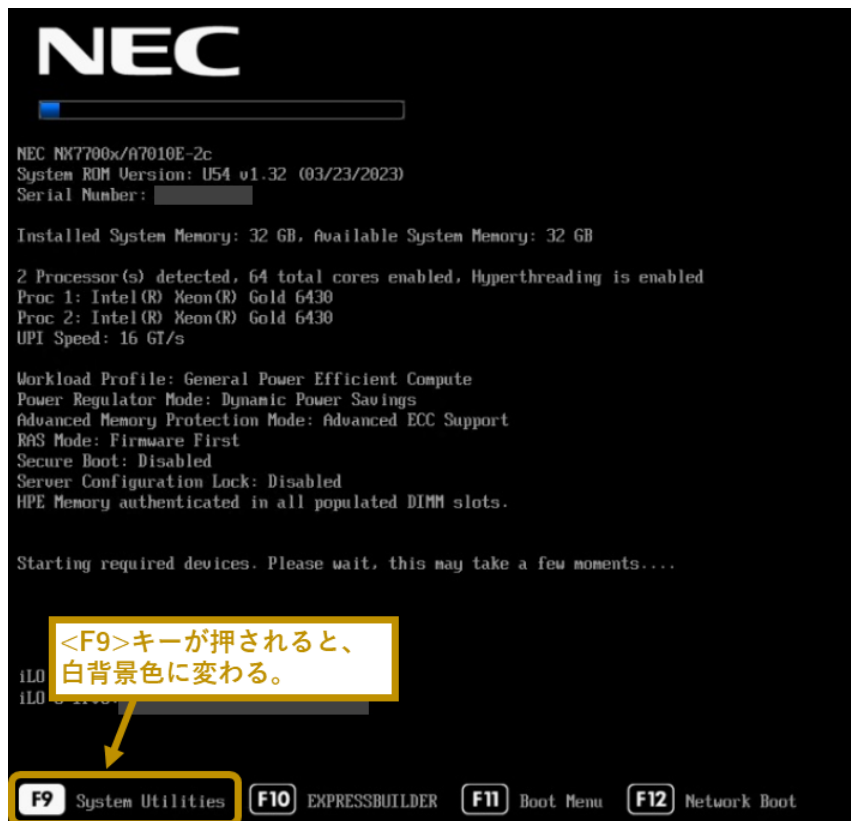
リモートコンソールにて、下記「手順3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」(②)をクリックします。



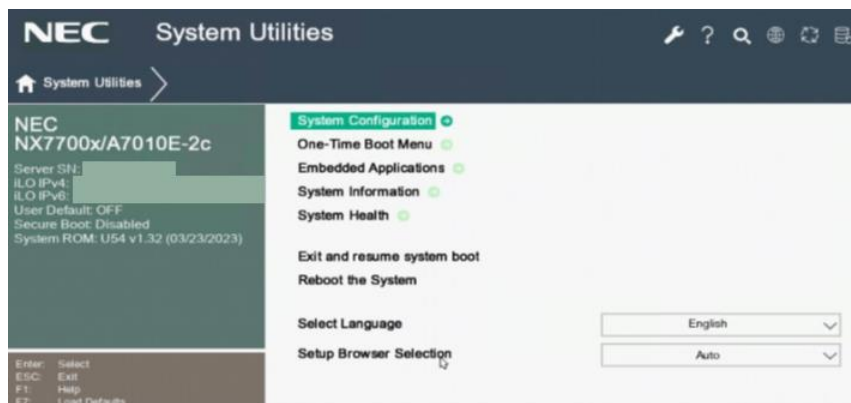
本体装置が再起動します。

[step.r-11] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。



System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。

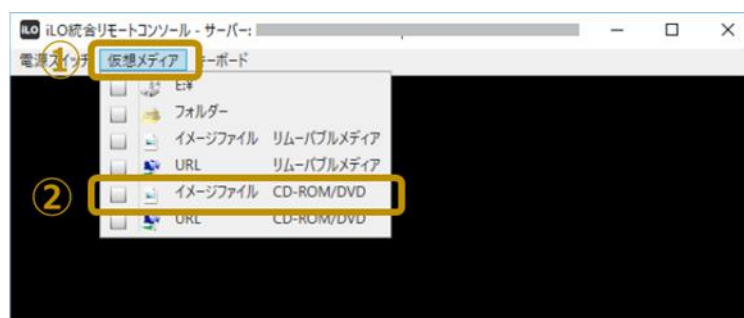


[step.r-12] Starter Pack ファイルのマウント解除

リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。

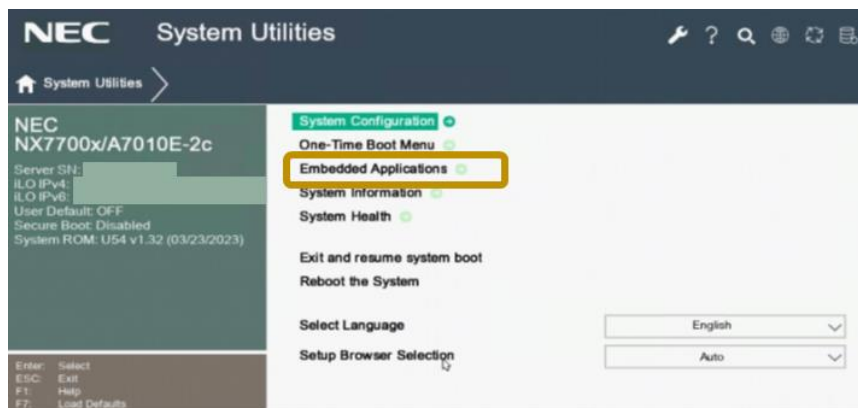
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



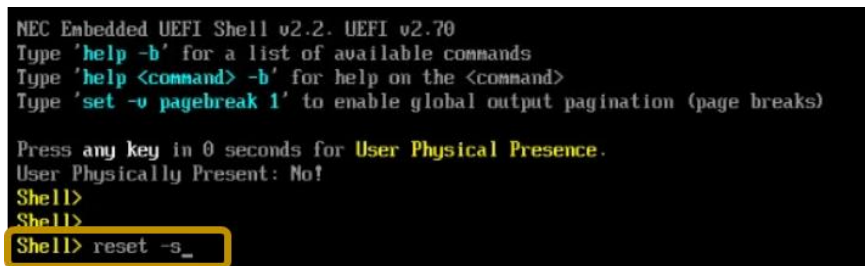
[step.r-13] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている **System Utilities** 画面において、「**Embedded Applications**」→「**Embedded UEFI Shell**」を選択します。

**[step.r-14] 本体装置の電源 OFF**

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```

**[step.r-15] 本体装置の AC OFF → ON**

FW 更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き **AC OFF** してください。



本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯します。
電源 ON だと、**POWER** ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

B. 本体装置の AC ON

本体装置を **AC OFF** した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み **AC ON** させてください。

そして、本体装置が **AC ON** 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。



本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。

電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。

以上で、【ケース R】追加ファームウェア更新作業は終了です。

7. トラブルシューティング

Table 7-1 トラブルシューティング一覧

No.	トラブル概要
TS-01	ファームウェア展開が失敗した

7.1. [TS-01] ファームウェア展開が失敗した

7.1.1. 現象

使用 Starter Pack	全て
発生タイミング (*a)	[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認
(*a) 対象ファームウェア更新ガイドにおいて、現象が起きた手順箇所を表す。	

ファームウェア展開が完了したが、パッケージのステータスアイコンが赤色になっている。



7.1.2. 対処

対処概要は下記の通りです。

1. ファームウェア展開が成功（パッケージのステータスアイコンが緑色）したファームウェア更新を完了させる。
2. iLO Web インターフェースの MCTP 設定を、一旦「無効」に設定した上で、再度「有効」に設定する。
3. ファームウェア展開が失敗したパッケージのみ、再度、ファームウェア展開する。

以降に、具体的な手順を記載します。

[step.TS01-01] ファームウェア展開失敗のパッケージ名を控える

「手順 3 展開」画面において、パッケージのステータスアイコンが赤色になっているパッケージのパッケージ名(コンポーネント名)を控えます。



[step.TS01-02] ファームウェア展開成功のファームウェア更新を完了させる

ファームウェア展開が成功 (パッケージのステータスアイコンが緑色) したファームウェア更新を完了させます。

具体的には、前記「6 ファームウェア更新手順」に記載する下記手順を実施します。

- ・ <[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認>の
「C. 本体装置の再起動」以降
- ↓
- ・ <[step.3-04] 本体装置の電源 OFF > 迄

[step.TS01-03] iLO Web インターフェースの MCTP 設定

iLO Web インターフェースの MCTP 設定を、一旦「無効」に設定した上で、再度「有効」に設定します。

iLO Web インターフェースの MCTP 設定方法については、<8.3MCTP 設定変更方法>の「iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法」を参照願います。



これ以降の手順は、「ファームウェア展開が失敗したパッケージのみを再度ファームウェア展開する」ための手順です。

[step.TS01-11] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.TS01-12] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.TS01-13] Starter Pack ファイルのマウント

ファームウェア展開が失敗した際に使用した Starter Pack ファイル (iso ファイル) が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3 Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

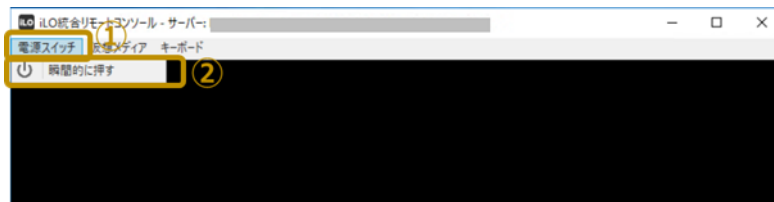
[step.TS01-14] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

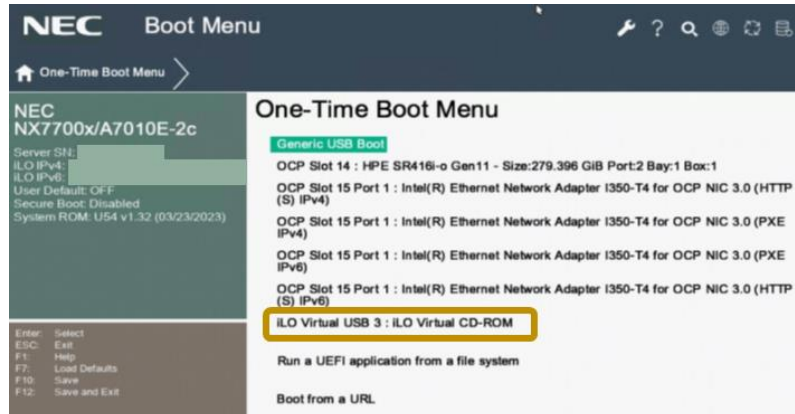
[step.TS01-15] Boot Menu の起動

本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.TS01-16] Starter Pack の起動**A. 起動デバイスの選択**

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。

**B. Interactive モードの選択**

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter キー>を押します。



10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。





上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.TS01-17] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。





上記[ファームウェアの更新]を押下したら、画面遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、**Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし **Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 **OFF** した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.TS01-18] ファームウェアインベントリの完了待ち

下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。
下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.TS01-19] ファームウェアの選択

リモートコンソールが下記「手順 2 レビュー」画面に切り替わり、インベントリされたファームウェアの一覧が表示されます。



A. ファームウェアの選択

「手順 2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- 前記<[step.TS01-01] ファームウェア展開失敗のパッケージ名を控える>で控えたファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.TS01-20] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

ファームウェアの展開が開始されると、下記「手順 3 展開」画面が表示されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



1つのパッケージのファームウェア展開が完了するまで、最大約 5 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



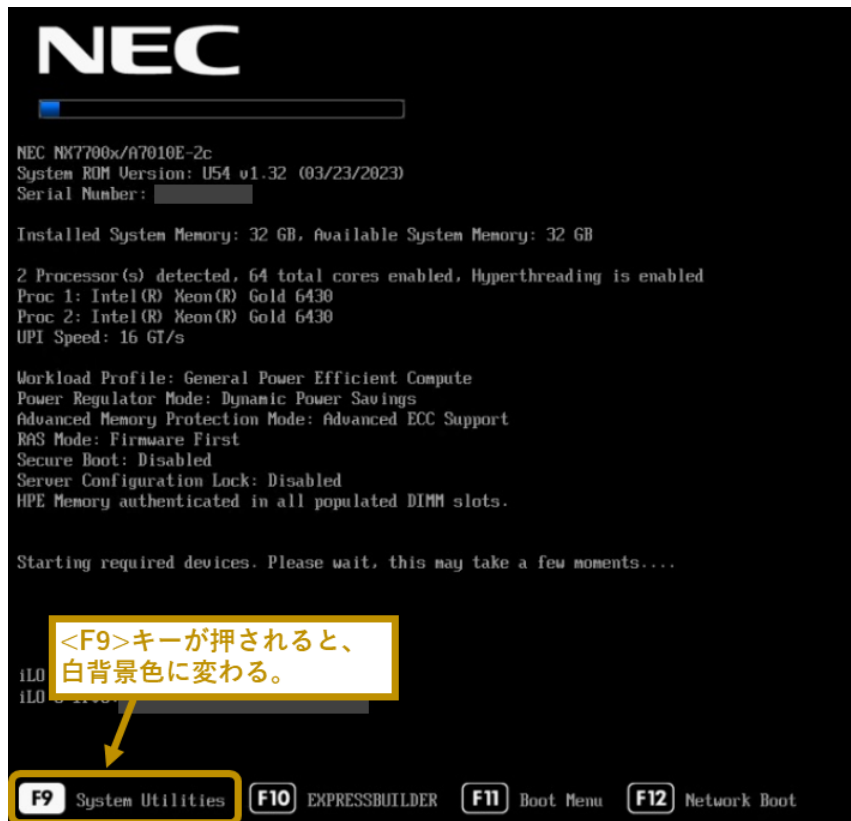
C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。

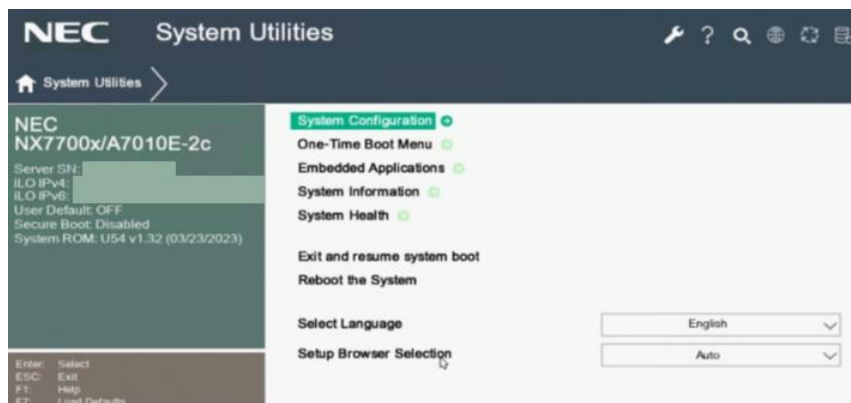


[step.TS01-21] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。



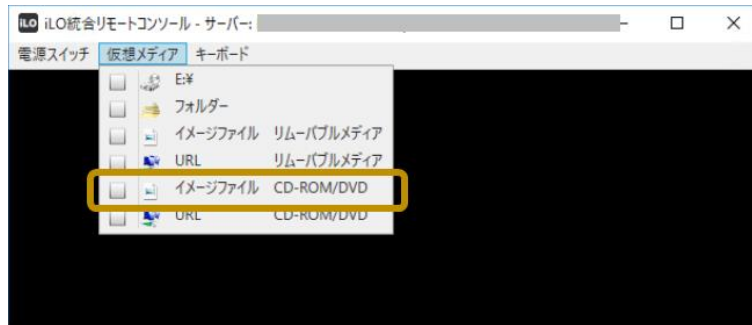
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.TS01-22] Starter Pack ファイルのマウント解除

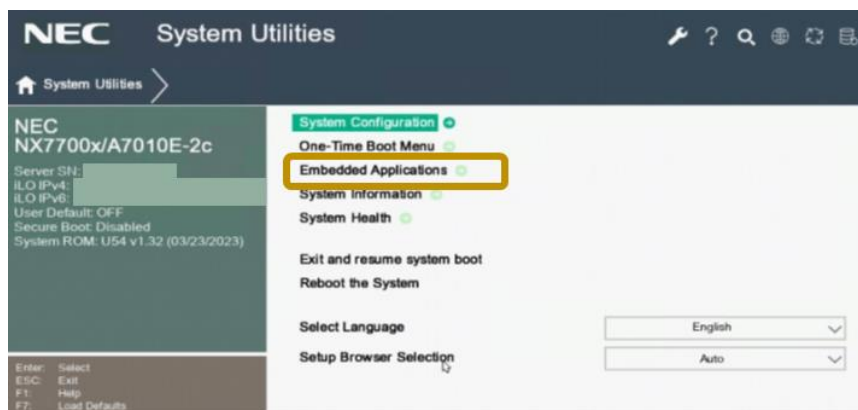
リモートコンソールにおいて、**Starter Pack** ファイルのマウントを解除します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



[step.TS01-23] UEFI Shell の起動

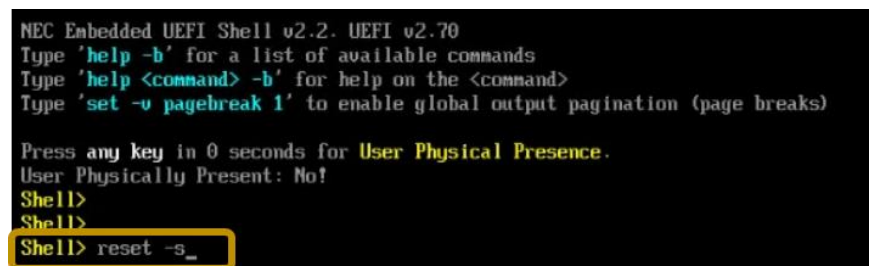
リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。



[step.TS01-24] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



以上で、本現象に対する対処は完了です。

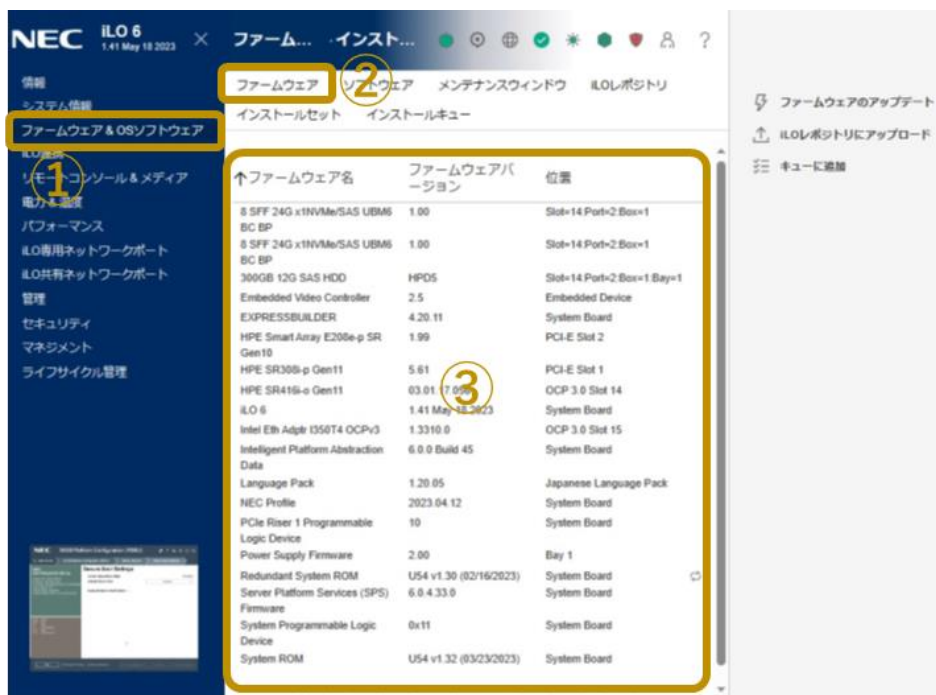
前記<6 ファームウェア更新手順>に戻り、<[step.3-05] 本体装置の AC OFF → ON>からファームウェア更新を再開してください。

8. 付録

8.1. ファームウェアバージョン確認方法

8.1.1. iLO Web コンソールでの確認方法

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「ファームウェア」タブ(②)をクリックします。そして、下図③箇所にて、各種ファームウェアバージョンを確認できます。



本書記載ファームウェア更新手順にて更新されるファームウェア名は下表の通りです。

ファームウェア名 (*a)	対応デバイス)	備考
System ROM	Mother Board (System ROM)	
Redundant System ROM		
Server Platform Services (SPS) Firmware	Mother Board (SPS)	
iLO 6	Mother Board (iLO)	
Language Pack	Mother Board (language pack)	
HPE SR308i-o Gen11	RAID (SR, Bi-mode) [NE3303-243/243L]	(*01)
HPE SR308i-p Gen11	RAID (SR, Bi-mode) [NE3303-245/245L]	(*01)
HPE SR416i-o Gen11	RAID (SR, Tri-mode) [NE3303-244/244L]	(*01)
HPE SR932i-p Gen11	RAID (SR, Tri-mode) [NE3303-246/246L]	(*01)
HPE Smart Array E208e-p SR Gen10	SAS [NE3303-197/197L]	(*01)
HPE NS204i-u Gen11 Boot Controller	OS ブート専用ボード [NE3303-247/247L]	(*01)
HPE MR408i-o Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-249/249L]	(*01)
HPE MR416i-o Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-250/250L]	(*01)
HPE MR416i-p Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [NE3303-252/252L]	(*01)
Intel Eth Adptr I350T4 OCPv3	NIC (1G, T) [NE3304-206/206L]	(*01)
Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4	NIC (1G, T) [NE3304-209/209L]	(*01)
10Gb 2-port Base-T BCM57416 OCP3	NIC (10G, T) [NE3304-217/217L]	(*01)
Broadcom P210tep NetXtreme-E Dual-port 10GBASE-T Ethernet	NIC (10G, T) [NE3304-219/219L]	(*01)

Intel(R) Eth Ntwk Adptr OCP3.0 E810-XXVDA2	NIC (10/25G, SFP)	[NE3304-208/208L]	(*01)
Intel(R) Eth E810-XXVDA2	NIC (10/25G, SFP)	[NE3304-212/212L]	(*01)
HPE SN1200E 16Gb 1p FC HBA	FC (16G)	[NE3390-163]	(*01)
HPE SN1200E 16Gb 2p FC HBA	FC (16G)	[NE3390-164/164L]	(*01)
HPE SN1610E 32Gb 1p FC HBA	FC (32G)	[NE3390-175]	(*01)
HPE SN1610E 32Gb 2p FC HBA	FC (32G)	[NE3390-176/176L]	(*01)
HPE SN1100Q 16Gb 1P FC HBA	FC (16G)	[NE3390-165]	(*01)
HPE SN1100Q 16Gb 2P FC HBA	FC (16G)	[NE3390-166A/166L]	(*01)
HPE SN1610Q 32Gb 2p FC HBA	FC (32G)	[NE3390-174/174L]	(*01)
(*a) 上図③箇所の「ファームウェア名」欄に表示される文字列の一部です。			
(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。			

8.2. リモートコンソール及び仮想メディア

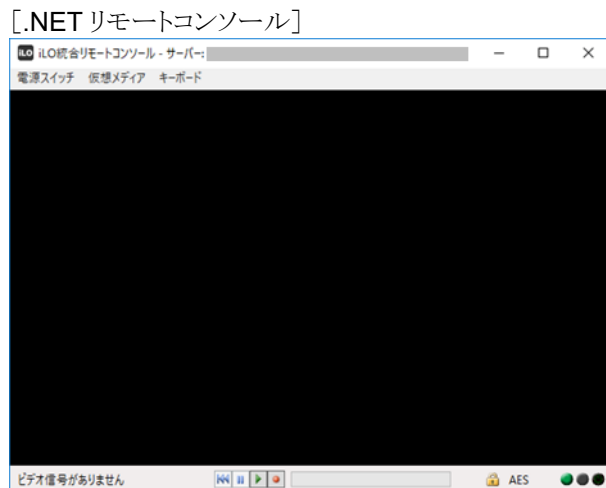
8.2.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方

8.2.1.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

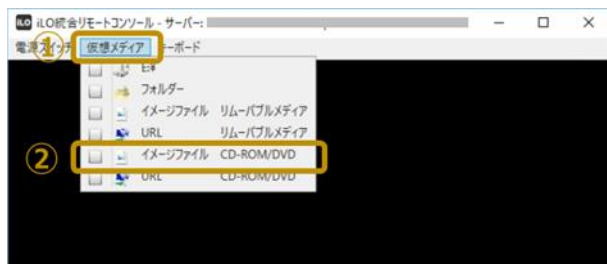


8.2.1.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

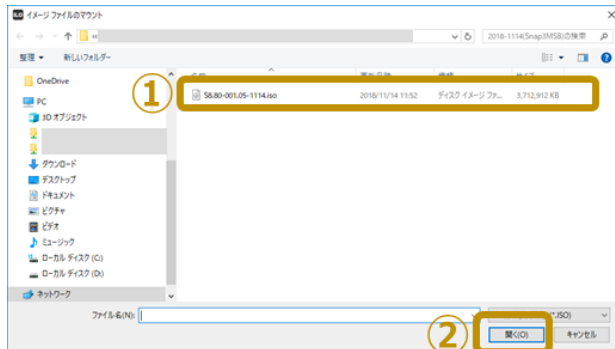
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD]を選択します。



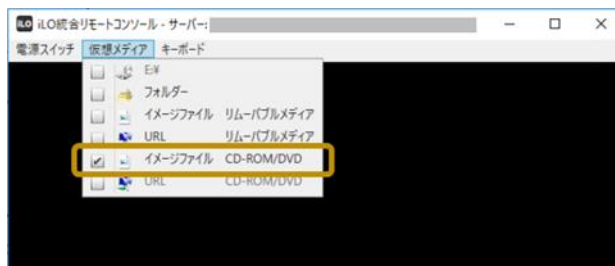
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。

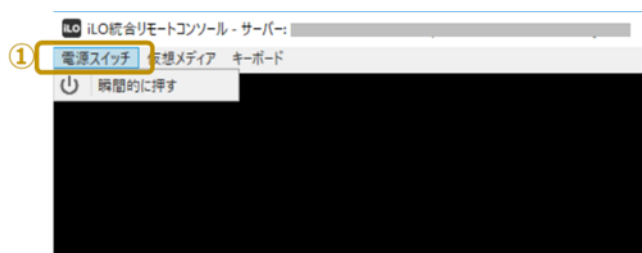


 ヒント	マウント解除する場合は、リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD] にチェック(レ点)が付いている状態で、[イメージファイル CD-ROM/DVD]をクリックします。
---	--

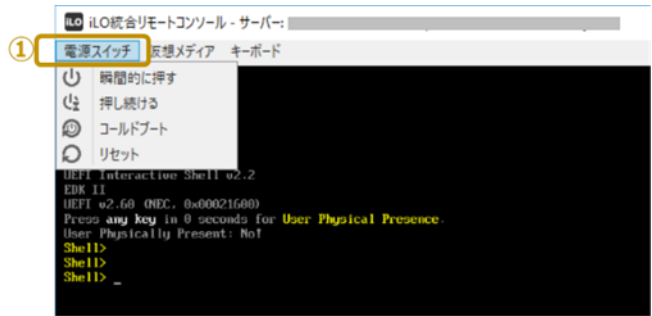
8.2.1.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

8.2.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方

8.2.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「HTML5 統合リモートコンソール」セクション配下の「新規ウィンドウ」ボタン(③)をクリックします。



HTML5 リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[HTML5 リモートコンソール]

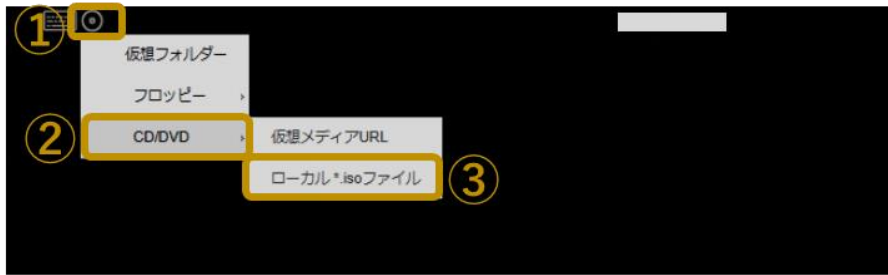


8.2.2.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

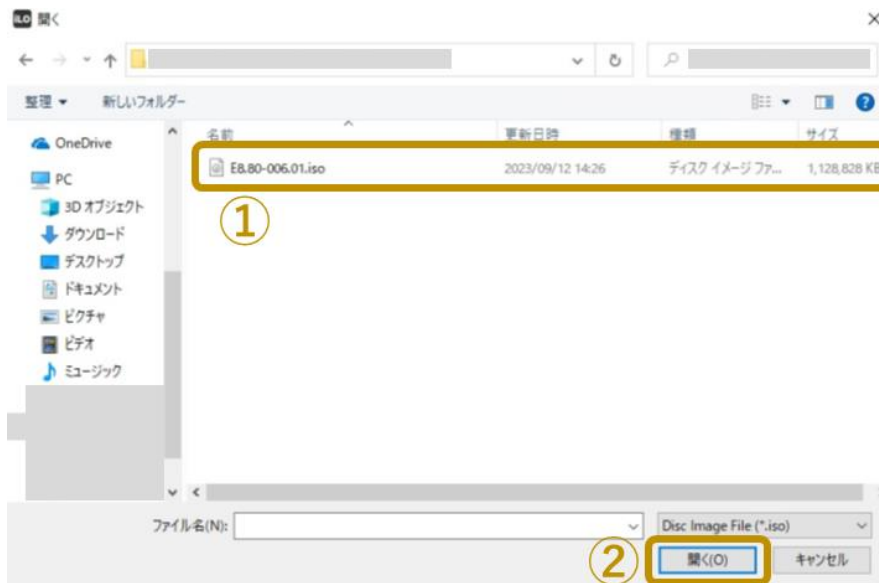
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD] → [ローカル *.iso ファイル]を選択します。



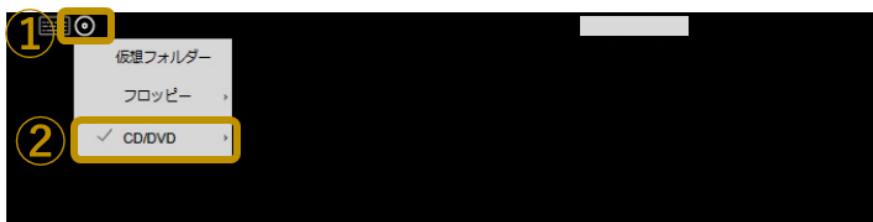
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示されたダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。





ヒント

マウント解除する場合は、リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD] → [メディアの強制取り出し]を選択します。



8.2.2.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの  をクリックし[電源]を選択すると電源操作メニューが表示されます。
表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

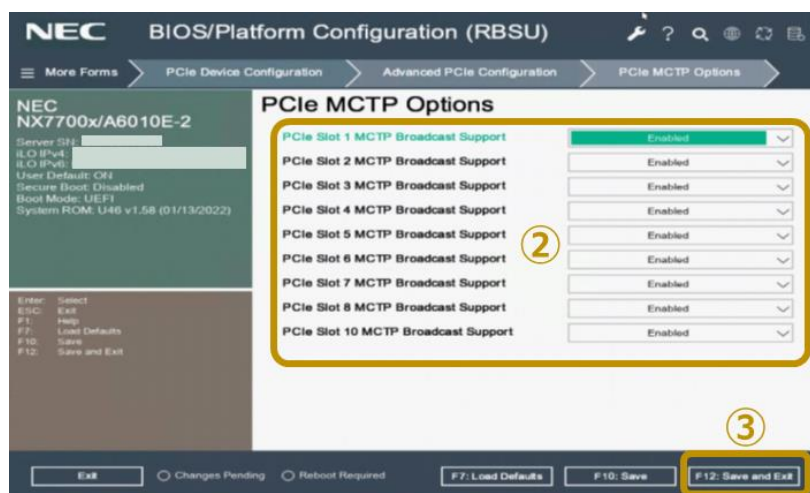
本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

8.3. MCTP 設定変更方法

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定の変更方法を記載します。

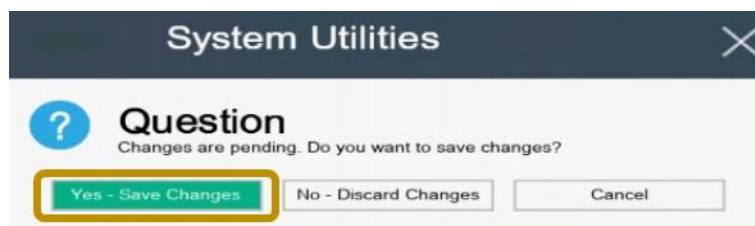
System Utilities の MCTP 設定変更方法

- ① リモートコンソールを起動し、本体装置電源 ON 後、POST 時に<F9>キーを押して System Utilities を起動します。
そして、{「System Configuration」→「BIOS/Platform Configuration (RBSU)」→「PCI Device Configuration」→「Advanced PCIe Configuration」→「PCIe MCTP Options」} を選択します。
- ② 下図 PCIe MCTP Options 画面において、MCTP Broadcast Support を適切に設定します。

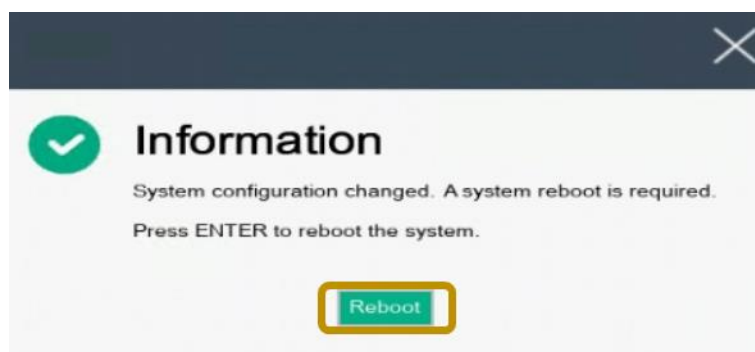


- ③ 設定変更を保存及び反映させるために、上図画面右下の「F12: Save and Exit」をクリックします。

下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Yes - Save Changes」をクリックします。



下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Reboot」をクリックします。
本体装置が再起動します。



- ④ 本体装置再起動後、POST 時に<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。
そして、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択し、UEFI Shell を起動します。
UEFI Shell 起動したら、「reset -s」と入力して、本体装置を電源 OFF します。

```

UEFI Interactive Shell v2.2
EDK II
UEFI v2.60 (NEC, 0x00020000)
Press any key in 0 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: No!
Shell>
Shell>
Shell>
Shell> reset -s

```

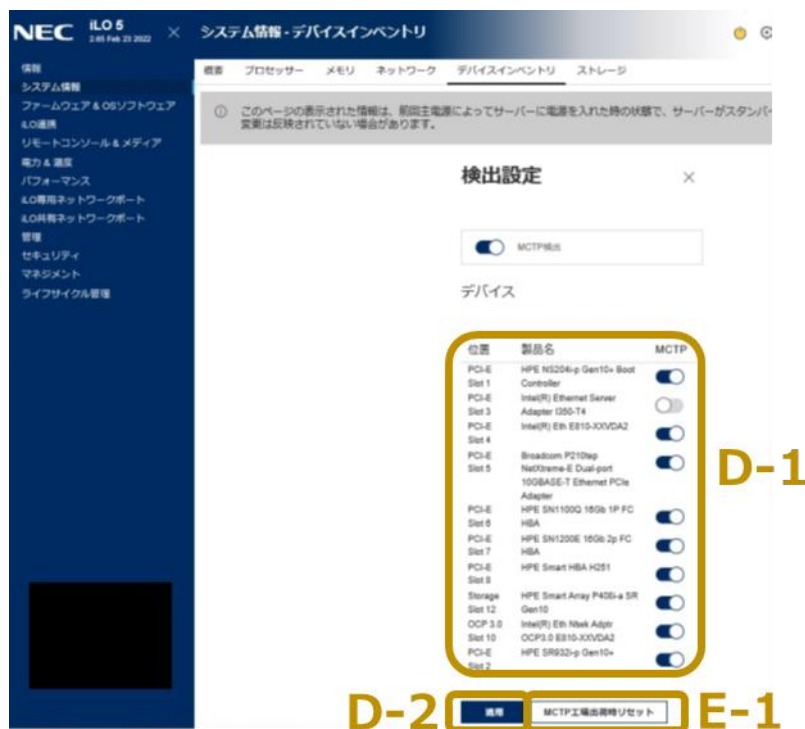
以上で、System Utilities の MCTP 設定変更操作は終了です。

iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法

- ① 本体装置を電源 OFF します。
- ② iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「システム情報」(A)をクリックし、「デバイスインベントリ」タブ(B)をクリックします。そして、下図 C 箇所の「検出」をクリックします。



- ③ 下図検出設定ページにおいて、MCTP を適切に設定します。



- MCTPを「無効」に設定する場合、
上図 D-1 箇所の「MCTP」欄を  に設定した後、「適用」(D-2)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP の設定を確認」フレームが表示されますので、「はい」(D-3)をクリックします。



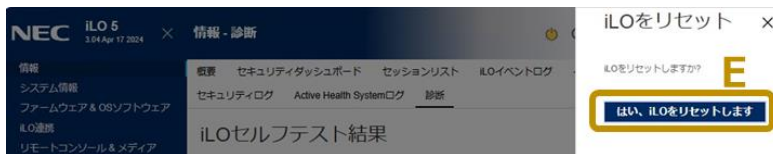
- MCTPを「有効」に設定する場合、
上図「MCTP 工場出荷時リセット」(E-1)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP 工場出荷時リセット」フレームが表示されますので、「はい」(E-2)をクリックします。



- ④ iLO をリセットします。
具体的には、iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「情報」(A)をクリックし、「診断」タブ (B) をクリックします。そして、下図 C 箇所の「リセット」をクリックします。



そうすると、下図「iLO をリセット」フレームが表示されますので、「はい、iLO をリセットします」(E)をクリックします。iLO がリセットされます。



以上で、iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更操作は終了です。

NEC

NX7700x/A7000 シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド
(オフライン版、Starter Pack 利用)

2025 年 6 月 第 6 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2023-2025

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。